

令和4年度

地域と共にある学校づくり

実践事例集

— 下伊那地区 —



長野県教育委員会事務局
文化財・生涯学習課
南信教育事務所飯田事務所

目 次

小 学 校

<飯田市>	
○丸山小	1
○追手町小	2
○浜井場小	3
○座光寺小	4
○松尾小	5
○下久堅小	6
○三穂小	7
○伊賀良小	8
○山本小	9
○竜丘小	10
○川路小	11
○千代小	12
○千栄小	13
○龍江小	14
○上久堅小	15
○鼎小	16
○上郷小	17
○上村小	18
○和田小	19
<松川町>	
○松川中央小	20
○松川北小	21
<高森町>	
○高森北小	22
○高森南小	23
<阿南町>	
○大下条小	24
○和合小	25
○新野小	26
○富草小	27
<阿智村>	
○阿智第一小	28
○阿智第二小	29
○阿智第三小	30
○清内路小	31
○浪合小	32
<平谷村>	
○平谷小	33
<下條村>	
○下條小	34
<壳木村>	
○壳木小	35
<天龍村>	
○天龍小	36
<泰阜村>	
○泰阜小	37
<喬木村>	
○喬木第一小	38
○喬木第二小	39

<豊丘村>	
○豊丘南小	40
○豊丘北小	41
<大鹿村>	
○大鹿小	42

中 学 校


<飯田市>	
○飯田西中	43
○飯田東中	44
○旭ヶ丘中	45
○緑ヶ丘中	46
○竜峡中	47
○竜東中	48
○鼎中	49
○高陵中	50
○遠山中	51
<松川町>	
○松川中	52
<高森町>	
○高森中	53
<阿南町>	
○阿南第一中	54
○阿南第二中	55
<阿智村>	
○阿智中	56
<下條村>	
○下條中	57
<壳木村>	
○壳木中	58
<天龍村>	
○天龍中	59
<泰阜村>	
○泰阜中	60
<喬木村>	
○喬木中	61
<豊丘村>	
○豊丘中	62
<大鹿村>	
○大鹿中	63

義 務 教 育 学 校

<根羽村>	
○根羽学園	64

特 別 支 援 学 校

○飯田養護	65
-------	----




学校の概要		学校名	飯田市	立丸山小	学校	学校長	中原 秀樹	児童生徒数	457 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の 学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	明るいかざこしの子らを育てる会(丸山小・飯田西中)		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 各公民館主事 各公民館まちづくり委員			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいないか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	3 人			
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)			人			
会議 開催数 (予定)	3	回	今年度 開催日 (予定)	第1回5月11日(水) 第2回7月11日(月) 第3回2月9日(木)		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		公民館主事				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		○やさしい子 ○かながえる子 ○たくましい子										
地域と共有され た育てたい子ど もの姿		○確かな学力:自ら学ぶ子、基礎学力を身につける子 ○豊かな人間性:相手の思いに寄り添う子 ○健康体力:たくましい心体の子、役立つ自分を感じる子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。		○				
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。		○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの 人数	ボランティア 登録者人数	約50 人				
							参加者延べ 人数	100以上 人				
地域学校 協働活 動の概 要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習	○
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(子ども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場 体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
												
			青空スクール(毎週水曜日)			総合的な学習の時間(学年別)			かざこしタイム(木曜日)			
代表的な協働した活動の取組例												
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○本校では、各学年の生活科や総合的な学習の時間で地域のボランティアの方々が講師となって関わっていただいております。野菜作り・米作り・地域のお祭りや花火について・地域の防災・地域に伝わる獅子舞などたくさんの活動を実施している。												
○今年度の3年生は、運動会で踊る獅子舞を2つの地域の「獅子舞保存会」の方から、歴史や獅子舞の種類等の説明をお聞きすることができ学ぶことができました。その後、「羽場獅子と東野大獅子」の舞を実際に見ることができ、「足が大きく開いていてかっこよかった」「頭が左右大きくまわっていた」「動きのスピードが一緒」等、本物に触れながら、自分たちの動きを振り返ることができました。												
○自分たちが練習してきた舞を保存会の方に見ていただき、アドバイスをもらったり、保存会の方々が自分の舞と一緒に踊ってくださり、生き生きとした表情で活動する様子がみられました。地域の方からいただいたアドバイスを意識しながら舞う子どもたち。自己を振り返り、更に成長していく姿があり、地域の伝統獅子舞を引き継いでいきたい子どもたちの思いも多く見られました。地域の方の力、影響は大きいです。ありがとうございます。												

学校の概要		学校名	飯田市	立 追手町小	学校	校長	曾我 佳伸	児童生徒数	138 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	追手町小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				地域住民、ボランティア代表			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月19日(木)	7月7日(木)	2月15日(木)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	「信自」「愛他」									
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域に愛着を持ち、信自・愛他の精神に満ちた子ども」									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	170 人	
								参加者延べ人数	150 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>校内音楽会や合唱団の合唱コンクール出場にあたって、「音楽専科以外にもう1名伴奏者が必要」と課題が、ここ数年挙げられていた。本年度、年度当初学校運営協議会の中で課題を伝えたところ、公民館主事から地域の方の中で協力者(石原路子さん)を紹介していただいた。支援者の石原さんには、始業前の合唱団の練習や音楽会に向けて低学年の練習中心に、一日数時間、週数日来校していただいた。これまでに比べ、音楽専科以外に伴奏者がいることで、音楽専科が指揮者をする事ができ、児童の歌声のバランスや合わせ具合などの指導が適切にできるようになった。また、指揮者の求めに応じて適切に伴奏していただけることで、子どもたちにとってもより多くの練習につながっていた。また、伴奏に合わせて気持ちよく歌うことができ、子どもたちの発表したいという意欲にもつながっていた。</p>										

学校の概要		学校名	飯田市 立 浜井場小 学校			学校長	木下 潤児		児童生徒数	118 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
			○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称		浜井場小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人	
					主任児童委員 民生児童委員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	6月13日 7月15日 2月22日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		「誠実にして知性に富み、健康で実践力のある子どもの育成」～かしこく・やさしく・たくましく～										
地域と共有された育てたい子どもの姿		じっくり学ぶ子 思いやりのあるやさしい子 本気でがんばる子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	34 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5	参加者延べ人数			118 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
		清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
		土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
		人権教育	○	国際理解	○	託児	○		○		○	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○3年 国語(書写)「木」 ・初めて毛筆書写に取り組む3年生が、書写の基礎を学ぶため、書写の学習ボランティアに授業支援をしていただいた。 ・1回目の書写の時間は、担任の指導のもと、道具の準備や片付けの仕方、姿勢や筆の持ち方を確かめた。2回目の授業で学習ボランティアの方々に書き方を中心に支援していただいた。「木」を書く活動では、水黒板にお手本の文字を書き、黒板で始筆の形を確かめ、「止め」や「はらい」の基本を示していただいた。実際に児童が書く段階では、お手本を示したり、手を取ったりしながら丁寧に「木」を書くポイントを教えていただいた。 ・全体でポイントを示したり個別に筆の使い方を教えていただいたりしたため、児童は書いていく中で「止め」や「はらい」を意識して字形が整っていった。 ・初めて毛筆書写を学ぶ子ども達の期待感に応えるように支援していただいた。												

学校の概要		学校名	飯田市	立座光寺小	学校	学校長	塩澤 裕二	児童生徒数	233 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	座光寺小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人
				・民生児童委員会委員長・主任児童委員・児童センター館長・商工会議所座光寺支部長・学校ボランティア代表					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月4日(土) 10月18日(火) 2月16日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長・公民館主事		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	一人ひとりが輝き「まこところ」にあふれる学校									
地域と共有された育てたい子どもの姿	○もとめる子 ○つながる子 ○きたえる子 「意気と希望と人の和で未来を拓く子」(中学校区で共有している育てたい子どもの姿)									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	37 人	
								参加者延べ人数	70 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解	○	託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	足踏み脱穀体験(10月25日)		150周年記念式典での人形劇上演(11月12日)		読み聞かせ(6月より毎月1回)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>コロナ禍の継続で地域との交流活動にも慎重にならざるを得ない面もあるが、感染状況が落ち着いてきている時期に合わせて活動を計画するなど、昨年に比べて少しずつ活動の機会が増えている。</p> <p>中央の写真にあるのは4年生による人形劇の発表の様子である。毎年4学年が総合的な学習で人形劇に取り組んでいるが、今年は150周年記念式典の中で、多くの来賓を前に発表することができた。</p> <p>この人形劇は、地域にある竹田人形館の館長先生にご指導をいただいて創りあげたものである。人形作りや人形の動かし方、お囃子などの演出についての指導を受け、子どもたちが考えた座光寺小学校創立150年のあゆみを題材にしたストーリーを劇に仕立てた。自治センターや公民館の協力も受けながら地域の文化祭で発表する機会も得ることができ、表現力やコミュニケーション力、自己肯定感などの高まりにつながる活動となった。</p>										

学校の概要		学校名	飯田市	立 松尾小	学校	学校長	城田 純子	児童生徒数	722 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	松尾小学校 学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				地域住民、主任児童委員			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	4月22日、7月13日、2月2日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		育成会会長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	学校目標「まけるな」 ・考える子 ・心豊かなやさしい子 ・じょうぶな子									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に学び、地域を大事にする気持ちをもつ子ども ・あいさつのできる子ども ・困難にも負けず、粘り強く活動に取り組む子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	60 人	
								参加者延べ人数	250 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		ミシンボランティア(6月)			クラブ活動(6月～9月)			あいさつ運動(11月)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>松尾小学校及び松尾地区で大切にしている「あいさつの充実」と「地域とのつながり」の具現化のために、11月に6日間計画をして行っている。今年度で3回目の実施となった。参加者は松尾まちづくり委員会、PTA、各区長そして呼びかけに応じていただいた、松尾地区選出の市議会議員も来校していただいた。</p> <p>地域の方は玄関前でのぼり旗を持って登校する児童とあいさつを交わし、PTAの方は校内であいさつをする。子どもたちは、多くの方とあいさつを交わすことができ、気持ちよく一日をスタートできている。また、地域の方も松尾の子と関わりを持つことができ、大切な機会と捉えている。</p>										

学校の概要		学校名	飯田市	立 下久堅小	学校	学校長	山口 隆志	児童生徒数	122 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	下久堅小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員、自治委員会女性部長、下久堅育成部長、子丑会(農業ボランティア)代表、ひさかた和紙の会会長、保育園長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1	人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月27日 6月13日 9月17日 2月24日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	公民館職員(公民館長・公民館主事)			
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	『主体的に学び、思いやりを持った、心身ともにたくましい子ども』～久堅の大地に根っこを育む子ども～										
地域と共有された育てたい子どもの姿	『ふるさとを愛し、豊かな心と夢に向かってたくましく生きる力を持った子どもの育成』										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4			協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 43 人 参加者延べ人数 43 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>・学習習慣の形成と理解度に応じた学習指導の実現のため、1年生には毎日2時間、3年生には週2日2時間ずつボランティアに來校いただき、国語と算数を中心に学習支援をお願いしている。担任と一緒に宿題やプリント類のチェックをさせていただいたり、校長や教頭にその日の子どもたちの様子を報告していただくなど、学校と緊密に連携しながら子どもの育ちを支えていただいている。「書くことが苦手な児童が心穏やかに作文に取り組めるようになった」、「相手の気持ちを考えて協力して活動に取り組んでいた」、「ボランティアさんに細かいところまで配慮していただけてありがたい」という担任の声があり、授業参観アンケートでも「補助的にクラスに入っていただけで、1年生の大きな支えになっていることが心強い」という保護者の感想が寄せられた。</p> <p>子どもたちもボランティアの來校を心待ちにしており、休み時間などでも楽しく談笑している。担任にとっても子どもへの接し方や指導に関しての相談相手となっており、学校に大きな力を貸していただいていることが感じられる。</p>											



学校の概要		学校名	飯田市立 三穂小 学校		学校長	神戸 真由美		児童生徒数	73 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		三穂小 学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人		
					公民館長 主任児童委員 まちづくり副会長 保育園長 生活安全委員長 元PTA保護者会長 民生児童委員協議会長 子ども育成委員長			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)		4	回	今年度開催日(予定)	第1回 4月22日(金)	第2回 5月28日(土)	第3回 11月22日(金)	第4回 2月22日(金)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		ひびき合う学校 ～学び合い・思い合い・きたえ合い～										
地域と共有された育てたい子どもの姿		三穂小学校の子どもたちは、明るく大変素直です。小規模学校であり、幼いころから互いのことを知り、人間関係が安定しているため、言葉で伝えなくとも通じ合うこともあり、積極的に自分のことを伝えたり、表現する姿が全体的に少なくともまじさに欠けると感じています。そのため、自ら進んで様々な活動に取り組み、多様な経験を重ねる中で学び合い、思い合い、きたえ合う主体的な子どもの姿を願っています。										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	31	人		
						参加者延べ人数		50	人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児	○						
	学校・家庭・地域の協働した取組例			2年万次郎かぼちゃの苗うえ(5, 26)	ふるさとめぐり三穂(10, 22)			クラブ活動(11, 2)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
ふるさと三穂巡りは、学校(児童)・地域・保護者三者が共催し毎年行っている、地域の自然や文化に触れながら、地域を巡る行事です。昨今のコロナ禍により5年ぶりの開催実施となりました。昨年度は、これまでの実施内容では難しいとの声が上がりと、3者協議の場を持ちコースの見直しを行いました。本年度は、親子で地域の自然や文化に触れ地域の方とのコミュニケーションを大切にすることで従来の目的はそのままに、コロナ禍でも対応できるよう新型コロナウイルス感染症対策を盛り込み、安心・安全な内容に変更して実施の方向を探ってきました。その中で、公民館主事さんが入念なコースの下見をしてくださり、地域の皆さんと子どもどもたちをつなぐ役割を担ってくださいました。細かく実施内容を検討した結果、実施時期に感染レベルが下がったこともあり、本年度は実施することができました。これまでできなかったことがようやく実施できた喜びと、地域の自然や文化に触れる尊い学びを、親子・地域の皆さんで経験した喜びが参加者の皆さんから伝わってきました。三穂の良さを再発見し地域の良さを改めて実感することができました。三穂を将来に渡って大切に思う気持ちを育むことにつながっていく取組であると考えています。それと共に、地域の皆様、保護者の皆様に協力していただき3者共催で実施できたことに感謝しております。												

学校の概要		学校名	飯田市立 伊賀良小 学校		学校長	高坂 徹		児童生徒数	808 名														
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																							
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																	
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある																	
			市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある																
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある																
名称		笠松運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ○主任児童委員(2名) ○JA支所長 ○児童クラブ館長 ○公民館主事			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人													
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		4月28日(木) 9月10日(土) 11月10日(木) 2月16日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)													
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事													
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																							
学校教育目標		かしこさ 思いやり 健やかさ																					
地域と共有された育てたい子どもの姿		清き心と活力に満ちた「いがらっ子」の育成 知徳体のバランスのとれた人間形成																					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																	
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○													
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○													
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○													
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				48 人													
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数				97 人													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間			
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○											
																							
		アップルロードりんご収穫(11/15)				理科実験教室(11/11)																	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																							
○りんご並木の基本的な管理はまちづくりのりんご愛護会が中心となり行っているが、4～6年生の児童が、アップルロードのりんご並木の除草作業で関わらせていただいている。また、愛護会のメンバーが少なくなっていることから、PTAもりんごの手入れに関わる機会を今年度より増やしている。																							
○りんごの収穫は全学年で取り組み、アップルロードの成り立ちなどの話を聞いた後、一人2個ずつ収穫させていただいた。																							
○11月には国道事務所やNEXCO、まちづくり協議会に集まっていただき、りんごの収穫祭が行われた。収穫祭も今年で31回目となり、コロナ対策のため、6年生のみの参加となったが、児童による活動報告のあと、児童会長・副会長にりんごが贈呈された。																							
○子どもたちは、アップルロードに限らず、様々な場面で地域の方々に支えられていることを知る機会となった。また、自分が大人になったときには、地域に貢献できる人になりたいといった感想を持つ児童もいた。																							




学校の概要		学校名	飯田市立 山本小 学校		校長	富田 章		児童生徒数	237 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	キッズ山本コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 自治会副代表 民生児童委員会長 主任児童委員 杵原学校応援団代表 学習ボランティア代表 環境ボランティア代表 公民館主事			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	令和4年5月21日 9月22日 12月15日 2月16日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		かしこい子ども さわやかな子ども 元気な子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿		・山本の人や自然とつながり、地域への愛着をもった明るく元気な子どもの育成 ・自分で考え主体的に行動ができる子ども、思いやりのある子どもの育成										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				ボランティア登録者人数			60			人	
					参加者延べ人数			200			人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解	○	託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	人形劇学校交流会(10月15日)			校庭整備(9月25日)			放課後学習(年12回)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
・学校運営協議会、地域、PTAと願う子ども像を共有し、今年度の活動方針を「子どもが主体的に活動に取り組む力を育む」とした。その方針にもとづいて公民館が主となり学校間交流会を立案、実施した。 児童が目標にしてきた人形劇フェスタが中止になったため、新たに発表できる場となった。学校間交流会だけでなく、地域高齢者施設での人形劇の発表の場もつくっていただいた。地域の方々に人形劇を発表することで、子どもたちは思い切り表現することができ自信を得た。高齢者の方々が喜ぶ姿を見たり、一緒に会話をしたりすることで温かい交流の場となり、子どもたちは地域の一員という意識をもった。												



学校の概要		学校名	飯田市 立 竜丘小 学校			学校長	山崎 啓		児童生徒数	351 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任民生児童委員、地域住民代表、放課後子ども教室コーディネーター、竜丘図書館長(学習ボランティア)、公民館主事				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人	
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)								人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		4月28日、7月22日、2月10日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		かしこく 心ゆたかな たくましい 丘の子 ①進んで学び、自分で考え判断し表現できる ②自分も、友達も大事にし、協力して人と関われる ③心も体も健康で安全な生活ができる。竜丘のよさを感じ、ふるさとを誇りに思う									
地域と共有された育てたい子どもの姿		1)3つの「あ」(あいさつ、あたたかい言葉、あんぜん)を大切に、進んで発揮しようとする姿。「キラリ」活動の継続。 2)地域の方などと進んで触れ合って、思いやりの心や進んで学ぶ姿勢。 3)学校が楽しいと思える居場所づくり。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
3 地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		107 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について								参加者延べ人数		320 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
		清掃				ICT				学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育				国際理解				託児	
		クラブ、部活動		○		給食				休み時間	
		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃				放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		幼竹狩り(5/17)		米作り・稲作り(10/11)		クラブ活動(11/11他4回)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
6年生は、鷺流峡復活プロジェクトに参加して、景観維持や竹の有効利用を目的とした活動の取り組みを進めてきた。幼竹狩りでは、NPO法人のプロジェクトを進めている方々や地域の方々と共に作業を行い、環境維持のための活動を知る中で、環境を守っていくことの大切さについて意識を高めた。またメンマづくりでは、地元企業や地域の方々にも協力をいただきながら、メンマの製造過程を教えていただいたり、パッケージのラベルデザインの作り方を教えていただいたりして、自分たちの発想やアイデアを生かしたラベルをつくった。販売についてはチラシ作りやホームページ作りなどを分担しながら行い、販売方法や宣伝方法なども考えて進めてきた。これらが子どもたちの主体性、創造性、問題解決力などの育成につながったと思われる。また、お店での接客、宣伝活動を通して、地域の方々とコミュニケーションを取ることもでき、活動に関わる方々や地域の方々の願いや優しさに触れたことで、ふるさとへの思いを感じとり、地域への思いをより深める活動となった。											

学校の概要		学校名	飯田市 立 川路小 学校	学校長	浅川 浩	児童生徒数	104 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ・川路まちづくり委員会会長・自治振興センター所長・地区教育育成委員長・地域森林体験学習指導員・主任児童委員・保育士・公民館図書館司書			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人		
川路っ子コミュニティスクール運営委員会(川路っ子応援団)					中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	令和4年5月26日(木) 令和4年10月3日(月) 令和5年2月9日(木)		具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		○健康 丈夫な体に鍛える子 ○快活 明るく素直に生きる子 ○積極 進んで自ら高める子							
地域と共有された育てたい子どもの姿		からだを鍛え、わを作り、じぶんを高める『か・わ・じの子』							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 61 人 参加者延べ人数 35 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
交通安全教室(R4.5.2) 読書週間読み聞かせ(R4.6.28) 人形劇練習(R4.7)									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
[3学年人形劇練習] 3学年では毎年、飯田市人形劇フェスタや川路文化祭出演に向けて人形劇に取り組んでいる。今年度も8月にある人形劇フェスタ出演を目標にして、自分たちでシナリオを考えたり、人形を作ったりしてきた。その中で地域の方の力をお借りして、人形の作り方や動かし方、見せ方などの指導をしていただいた。何度も学校へ足を運んでいただき、子どもたちの質問に答えてもらったり、アドバイスをもらったりすることで、コツがわかり、自信が付き、だんだんと子どもたち同士でも意見を出し合っている工夫をすることができるようになった。人形劇フェスタは中止になってしまっていたが、川路文化祭や学校人形劇の祭典などにも出演し、地域の方に喜んでもらい、子どもたちも達成感を味わうことができた。									

学校の概要		学校名	飯田市	立千代小	学校	伊藤政子	児童生徒数	30名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	千代小学校学校運営協議会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)			
			地域住民			地域コーディネーター	2人		
会議開催数(予定)		3回	今年度開催日(予定)	4月19日 10月17日 2月13日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	やさしく かしく たくましく								
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も友だちも大事にできる子 ・主体的に学び、進んで表現する子 ・ふるさとを愛し、自ら動き出す子 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
3	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○				
4	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	70人	ボランティア登録者人数			
				参加者延べ人数	35人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		地域を知る授業 和太鼓演奏(7月20日)		絵紙紙作り(6月22日など4回)		炭焼き体験(11月25日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<ul style="list-style-type: none"> ・地域を知る授業は、全校児童を対象に年に3回計画され、自分たちが生まれ育った地域の良さを知る機会となっている。 ・一回目、7月に行われた和太鼓演奏では、全校で迫力ある演奏を聴いた。2学期に入り、この和太鼓の演奏者でもあるIさんから指導を受けた1・2年生が、10月に行われた参観日の交流会で、実際に和太鼓の演奏を披露した。 ・二回目は8月に行われ、地域の千代幻豚の養豚農家Oさんから、豚を育て売りに出すまでの苦労や工夫などのお話を聞いた。3年生は、地域の産業の学習で、実際にOさんの養豚場を訪れ、仕事の様子や生産者の思いなどを再度詳しく学習した。 ・三回目は10月に行われ、Sさんの人生に学んだ。何十年も続けている天気や気温調べのこと、恩師の言葉をきっかけに書道に取り組んだことなどについて聞き、好きなことに打ち込む良さを学んだ。 									

学校の概要		学校名	飯田市 立千栄小	学校	学校長	大池 世佳	児童生徒数	31 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	千栄小学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
				<ul style="list-style-type: none"> 主任児童委員 民生児童委員 千栄小を考える会会長 しゃくなげの会理事長 		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	6月3日 7月4日 10月19日 2月7日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	かしこく やさしく たくましく								
地域と共有された育てたい子どもの姿	あいさつで 心をつなぐ 千栄っ子 ・学びを活かし、語り合い、追究し合う子ども ・自分づくり、仲間づくり、ふるさとづくり ・身も心も汗まみれ泥まみれになれる子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	35 人	
							ボランティア登録者人数	18 人	
							参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	どんぐりの会読み聞かせ(5/12他年10回)		クラブ(12/2他年3回)		6年総合千代ネギ栽培(5月～11月)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>・本の読み聞かせやクラブ活動等で、読み聞かせの上手な方や素晴らしい技能を持つ方と接する中で、本に親しむことができたり、いろいろな体験をすることができた。また、あいさつをしっかりと行ったり、地域に住む方へのあこがれを感じたりすることができた。</p> <p>・地元の伝統野菜である千代ネギや、大豆を栽培したり、よこね田んぼで田植えや稲刈りをする活動に取り組んだ。地域の方々が長年培ってきた技能や知恵を知り、野菜作りや稲作の楽しさ、苦勞を学ぶことができた。千代ネギ栽培については、植え付け準備の段階から販売にいたるまで、「千代ネギ保存会」の方々に継続してご指導をいただいた。千代ネギの特長や、歴史についても学ぶことができた。よこね田んぼの田植えや稲刈りでは、保全委員会の皆さんの手を借りながら、粘り強く作業に取り組むことができた。</p>									

学校の概要		学校名	飯田市立 龍江小 学校		学校長	大池 満		児童生徒数	110 名													
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																						
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある																
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)															
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある															
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある															
名称			龍江小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)													
						地域コーディネーター			1 人													
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人													
会議開催数(予定)		3	回		今年度開催日(予定)	・令和4年 5月19日 ・令和4年10月 7日 ・令和5年 2月15日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)												
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事												
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																						
学校教育目標		健やかで よく学ぶ子 ～やさしく かしく たくましく～																				
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・だれにでも明るいあいさつのできる子 ・友だちの考えもよく聞いて自分の考えを伝え合って学習に取り組む子 ・目当てに向かい進んで体を動かす子 ・龍江のよさを語れる子 																				
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○												
2		学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。														
3		地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)														
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 58 人												
5		教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数		80 人												
地域学校協働活動の概要																						
												登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
												清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
												土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
人権教育		国際理解		託児																		
学校・家庭・地域の協働した取組例																						
		学校りんご園の活動(通年)			竹ランタン作りに向け竹伐採(9月29日)			地域クラブでミニ獅子舞作り(10月13日)														
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																				
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																						
<ul style="list-style-type: none"> ・5年生は、昨年度から継続して取り組みを続けている「龍江の竹」について、今年は竹害について地元の「はちくの会」の方からお話を聞き、竹林整備や竹の有効活用について学習を進めた。そこで、龍江小学校創立150周年記念式典での発表や花火の夕べの際に、会場を手作りランタンの光で演出しようと、竹ランタンの製作に取り組んだ。 ・地域の方の竹林に出かけて指導を受けながら、竹をランタンの長さに切り学校に持ち帰った。地域の竹細工専門家の方をお招きして各自が考えたデザインで竹ランタンを完成させ、記念式典で龍江の竹について学んだことを発表するとともに、お披露目を行い、花火の夕べでも会場を幻想的な光で演出することができ子どもたちは満足した。 ・5年生の竹の活動以外にも、他の学年でシャルビルメジャー市との交流や、地域の公園にポイ捨て禁止の看板整備などの活動に取り組み地域の方の力を借りながら、子どもたちが地域のよさや課題に目を向けた学習を展開し、150周年記念式典で学びの成果を地域の皆さんに向けて発表することができた。 																						




学校の概要		学校名	飯田市立 上久堅小 学校		学校長	降旗敏昭		児童生徒数	48 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
			○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称		上久堅小学校学校運営協議会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
		・主任児童委員 ・地域住民								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	・5月6日(金) ・7月20日(水) ・10月18日(火) ・2月22日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事 まちづくり委員会会長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	向上心 耐久身 言堅行 やるき げんき こんき											
地域と共有された育てたい子どもの姿	自ら考え、進んで行動できる たくましい子ども ふるさとを 大事にできる 心豊かな子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○	
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	14	人	
									参加者延べ人数	60	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
【めだか池復活プロジェクト～4年生】 一学友林の中にある通称「めだか池」のめだかが激減している。何とか自分たちの手で「めだか池」を復活させたいと取り組んだ活動ー ・めだか池の清掃や看板設置 ・めだかを増やすために公民館長にめだか名人を紹介してもらい、名人から飼育方法を学び繁殖させて放流。 ・地域の方をお願いしてめだかが繁殖している池に赴き、実際にめだかを捕獲。 ■本校の自慢の場所を、自らの手で整備することで、愛校心を育むことができた。 ■公民館長の紹介で、地域の方や地域外の方と関わることができ、新たな地域の魅力や知識を得ることができた。 ■生き物を育てる中で命の大切さや、世話をする大変さ充実感を感じるにつな繋がった。												

学校の概要		学校名	飯田市	立	鼎小	学校	学校長	榎澤 直樹	児童生徒数	679 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	かなえコミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
			鼎地区子どもを育む委員会委員長 主任児童委員 飯田市スポーツ推進委員				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月18日(水) 10月24日(月) 2月24日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	心豊かでたくましい鼎の子【自主・共生】 ・自分の考えを伝えよう ～自ら学び、考えを表現する力の育成～ ・「ありがとう」を伝えよう ～思いやり支え合う人間関係の育成～ ・笑顔を伝えよう ～学びを通して交流する社会力の育成～									
地域と共有された育てたい子どもの姿	「心豊かでたくましい鼎の子」 ～自己肯定感・自己有用感、共に生きる感覚をもつ子ども～									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について				○					
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 17 人 参加者延べ人数 180 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	稲刈り(10月6日)		学習ボランティア(11月18日)		防災訓練(11月14日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○ (内容)米作り(田植え、観察、草取り、稲刈り、脱穀)体験、米作りについての調査、自己課題研究、米作りに関わってくださった方へのお礼を込めた収穫祭										
○ (どこで・誰と)学区内(「飯田市鼎下山」)の田んぼ・夢かなえ隊の皆様										
○ (成果や効果)自分の地域に目を向けながら、普段口にしてる米がどのような過程で、どんな工夫や手を入れながら作られているかを学ぶとともに、米作りの大変さや収穫の喜びを感じることができた。普段、日常的に田んぼの様子を見に行けない自分たちに代わって、田の手入れを行ってくださるなど、自分たちの学習活動を支えてくださっている地域の方々の思いにもふれながら、食を支える農家の営みに感謝の気持ちを抱くとともに、自分たちの生活が多くの人に支えられていることを知ることができた。										

学校の概要		学校名	飯田市 立 上郷小 学校			学校長	村松 亮彦		児童生徒数	736 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称			上郷の子どもを育む会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)				
			社会教育委員 生活安全委員長 青少年健全育成部長 学校ボランティア代表 地域住民			地域コーディネーター		2 人					
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人					
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月24日(火) 7月20日(水)(臨時) 11月30日(水) 2月24日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		やる気 思いやり											
地域と共有された育てたい子どもの姿		意気と希望と人の和で未来を拓く子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				43 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数				200 人			
地域学校協働活動の概要													
登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動			
清掃				ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援			
土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)			
人権教育				国際理解				託児		給食			
										休み時間			
										コロナウイルス対策の消毒・清掃			
										放課後教科・体験学習			
										遠足・登山			
										キャリア教育(職場体験を含む)			
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		おはなしツリーハウス読み聞かせ(7/11)			上郷チャレンジ(9/27)			ミシンボランティア(10/25)					
代表的な協働した活動の取組例													
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
上郷チャレンジ(クラブ活動)では、卓球、茶道、囲碁・将棋、百人一首、人形劇、パタンク、手芸、焼き物、ニュースポーツ、歴史、理科工作、絵画クラフトの12のクラブに、1回につき約40名の地域のボランティアの方が講師として来てくださった。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のために、回数を1回減らすこととなが、1回につき2時間近い活動を計4回行うことができた。ボランティアの皆さんが専門的な知識や技術を丁寧に指導して下さり、子どもたちは意欲的に活動に取り組むことができた。ボランティアの方も、とても楽しそうに指導して下さった。職員にとってもボランティアの方の専門的な知識や指導に触れることができ、指導法について学ぶよい機会になっている。													

学校の概要		学校名	飯田市 立 上村小 学校	学校長	北原 文雄	児童生徒数	19 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	かみむらっこ応援団運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)			
				保育園長 民生児童委員 主任児童委員 自治振興センター長 市立図書館分館長		地域コーディネーター	1 人		
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	第一回…4月22日 第二回…7月9日 第三回…2月24日(予定)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる上村の子							
地域と共有された育みたい子どもの姿		郷土を愛し、社会の一員として、自立した生活ができる子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育みたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育みたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5		ボランティア登録者人数 25 人 参加者延べ人数 80 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
	地域・保護者・児童プール清掃		地域・PTA講演会		KGCかみっこグリーンクラブ自然塾キャンプ				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ KGCかみっこグリーンクラブ自然塾キャンプ									
9月24日(土)にデイキャンプへ変更して以下の内容実施①竹の灯籠作り ② 川探検(川の生態系の講習) ③火起こしと飯ごうでご飯炊き ④しらびそ高原:天体望遠鏡で星空観察。公民館主事が中心となって、「キャンプ実行委員会」(公民館・学校代表・地域ボランティア「どんぐり隊」)で、5月25日に計画を立てる。「キャンプに向けた学習会」を7月17日に行い安全面に対する学習会と宿泊場所の清掃等(保護者も参加)をする。必要に応じてZOOMミーティング。当日のキャンプは、地域、学校職員、保護者で行った。児童は、自分たちの地域によさと地域に支えられ、大切にされていることの再確認できた。日頃できないダイナミックな活動ができたこと。保護者は、上村に支えられていることのありがたさを実感できた。特認校の保護者と上村在中の保護者同士が話をする時間が取れた(火おこしやカレー作りの準備の最中)。地域は、特認校の保護者との関わりを多く持つことができ理解し合えた。									

学校の概要		学校名	飯田市 立 和田小 学校		学校長	河西 多恵子		児童生徒数	32 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称			わだっ子応援隊			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)				
			南信濃まちづくり委員会副会長 南信濃1500委員会会長 南信濃公民館副館長 主任児童委員						地域コーディネーター		人		
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1	人		
会議開催数(予定)		5	回	今年度開催日(予定)	5月 9日第1回 7月 11日第2回 10月 13日第3回 12月 23日第4回 2月 28日第5回	遠山三校合同学校運営協議会		5月 20日第1回 11月 26日第2回 2月 6日第3回	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		
									具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		心豊かな南信濃の子 元気 本気 勇氣											
地域と共有された育てたい子どもの姿		遠山郷を愛し、誇りを持ち、遠山郷を担っていく人材の育成 ・本気になって追究する子 ・友と遊びこみ、進んで体を鍛える子 ・支え合い、思いやりのある子 ・ふるさと「南信濃」を愛する子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○				
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	80	人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○					参加者延べ人数	50	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動		給食		休み時間		
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例												

学校の概要		学校名	松川町	立松川中央小	学校	学校長	小平 知行	児童生徒数	537 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 通学区区長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人		
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人		
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月12日 10月6日 12月15日 2月(予定)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	よく学び よく遊び よく働き 思いやりのある子											
地域と共有された育てたい子どもの姿	よく聴き、考え、学び合える子 ・友だちを大切にし、なかよく遊べる子 ・黙って掃除ができる子 ・気持ちよい挨拶・返事ができる子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			80 人			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5	参加者延べ人数			213 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	ゆき給食届け隊(5/6)			クラブ支援隊(10/6)			地域を知ろう隊 稲刈り(9/26)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
【クラブ支援隊】 今年度は昨年度より2つ多い8つのクラブ(バレーボール、ニュースポーツ、卓球、落語、折り紙、工作、囲碁将棋、地域めぐり)で地域の方の支援をいただいた。地域めぐりをのぞく7つのクラブは校内や隣接する町体育館で、地域めぐりクラブは町のマイクロバスを利用し町内を巡った。地域めぐりクラブでは町内の名所などとあわせ、旧東小にあるショップボット(木工加工機械)の体験を組み入れるなど、工夫していただいている。 クラブ活動は実質年4回の活動が確保されているが、日頃の授業とは違った体験ができるため、楽しみにしている児童が多い。今年度新設された落語クラブでは活動を通し話すことに自信をつけた児童や、情感込めてアナウンスをするようになった放送委員会所属の児童など、変容が見られるようになった。												

学校の概要		学校名	松川町 立 松川北小 学校	学校長	鈴木 康貴	児童生徒数	104 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	松川町保育園・小中学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人			
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人			
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月12日、10月6日、12月15日、2月9日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	公民館職員(公民館長・公民館主事)				
				具体的な役職(他をを選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	学び合い、認め合い、ひとりひとりがたくましく、みんなが伸びる松川北小学校									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 心豊かに 夢は大きく めあてを持って主体的に学ぶ子 多様な集団の中で協働できる子 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○					
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○					
3	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○					
4	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	58 人	ボランティア登録者人数	178 人			
						参加者延べ人数	178 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解	○	託児	○	○	○	○	○
学校・家庭・地域の協働した取組例										
地域学習の日(5月2日)		クラブ活動(6月28日)		書写学習(10月18日)						
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>そばクラブは、今年度より発足した新しいクラブです。発足に当たり、粉や水、道具の準備からそばを打って食すまで、大人でも何時間もかかってしまう大変な作業を45分で行うという時間の問題に加え、コロナ感染症やアレルギー対策等、課題も山積みでした。しかし、講師の方が毎回活動計画書を作成してくださり、担当職員と講師の役割分担も示されていたため、なかなかいいコンビネーションでスムーズに活動を進めることができました。さらに、今回は「水回し」、今回は「こね」、その後は「切る」等、1回のクラブで、そば打ち全工程のどこかひと工程に絞って体験をさせ、その前後の工程は講師が行うといった工夫をしてくださり、45分間という短い時間の中で、子どもたちは毎回そば打ちの体験もでき、食すこともでき、満足感を得ることができました。子どもたちも会場に入るなり「今回はどこをやる?」と聞き、今日は自分たちがそば打ちのどの工程を教えられるのか楽しみな様子でした。最終日には、保護者も来て一緒にそば打ち体験をしていただく予定です。講師の方が、学校の実情に寄り添い、全面的にバックアップをしてくださっていると同時に、ただの体験ではなく「学び」をコーディネートしてくださっているおかげで、地域の方の温かさに触れながら充実したクラブ活動を行うことができました。</p>										

学校の概要		学校名	高森町	立高森北小	学校	学校長	松岡香代子	児童生徒数	114名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	やまぶきほたるの里コミュニティスクール運営協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1人	
			ほたる委員会委員長 主任児童委員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1人	
会議開催数(予定)	2回	今年度開催日(予定)	令和4年5月11日 令和5年2月14日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭、CS担当教員				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	ふんばる おもいやる ひびきあう									
地域と共有された育てたい子どもの姿	山吹・高森に学び、山吹・高森を愛し、山吹・高森を想う子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について		○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3	地域の実情や課題について		○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	50人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			5		参加者延べ人数		80人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		クラブ活動(6月7日)		5学年稲刈り(10月5日)		学校保健委員会(8月17日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<ul style="list-style-type: none"> ・学校創立150周年事業の中で、地域の方々に学校行事を中心に参加していただく機会を多く取った。 ・学校保健委員会(8月19日実施)では、PTAに加え、地区の方々、クラブの講師、学習ボランティアの方々に声をかけ、参加していただいた。前半は、本校児童の健康に関わる話題や新型コロナウイルス感染症に関する地元の医師の方からの話を聞いた。後半は、小グループに分かれ、育てたい子どもの姿について話し合い、それを参加者で共有することができた。 										

学校の概要		学校名	高森町 立 高森南小 学校	学校長	塚越 智英	児童生徒数	648 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	柿の里コミュニティスクール運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員 子育て相談員		地域コーディネーター	1 人			
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人			
会議開催数(予定)	6	回	今年度開催日(予定)	柿の里コミュニティスクール 第1回 5月26日 第2回 1月26日 高森町小中学校運営協議会 4月21日 9月12日 12月6日 2月14日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	より強く より豊かに 生きる 市田の子ども (1)ねばり強く たくましい子ども(体) (2)自ら考え 実行できる子ども(知) (3)温かく思いやりのある子ども(情) (4)ものごとくにけじめのある子ども(意)									
地域と共有された育てたい子どもの姿	「なりたい自分への挑戦」①自分の良さを知り自他を大切にする子ども ②意欲的に表現する子ども ③ふるさとを愛し、ふるさとの未来と自分の夢を大切にする子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○			
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	85	人			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	5		参加者延べ人数	100	人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山		○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	4年生干し柿づくり(11月4日)		竹を使った工作(9/28・10/13・10/28・11/4・11/8)		読み聞かせボランティア(月2・3回)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
【4年生干し柿づくり】 《内容》干し柿作りで11月に柿の里コミュニティスクールの皮むきボランティアの方に教わりながら、柿の皮むき、燻蒸、つるし作業を行った。 《成果・効果》 ・手慣れた皮むき名人のおかげで皮むきは子どもたちもピーラーで柿の皮むきができ、柿すだれができあがると「オレンジ色のカーテンみたいだ」などの声が上がっていた。 ・大豊作の柿を地域の方の手を借りながら自分たちで干し柿にできることに満足感をもっていた。 今回来てくださったボランティアの方からは「地域の伝統を子どもが体験し継承していくことにこの活動の意味がある」という言葉をいただいた。このような地域の方の思いを子どもに伝えることで、子どもたちが地域とつながる自分を感じていくと思われる。										


学校の概要		学校名	阿南町 立 大下条小 学校	学校長	木下 武	児童生徒数	95 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表			○ PTA代表			
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○ 学校長・教頭以外の学校職員			
ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称	ふちっ子育成委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		
			町議会議員 人権擁護委員 主任児童委員 駐在所 防犯ボランティア代表 読み聞かせボランティア 地元消防団分団長			地域コーディネーター	1 人	
地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人						
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月11日 10月5日 2月7日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	ともに学び心ゆたかのでたくましいふちっ子の育成							
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 かしいふちっ子…自分のよさを発揮し、課題に粘り強く取り組み、学びを楽しめる子 2 やさしいふちっ子…豊かな感性と感謝の気持ちを持ち、他者へのやさしい気配りができる子 3 たくましいふちっ子…苦しいこと・困難なことにも負けず、自らそれを乗り越えられる子							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			
2	学校運営への必要な支援について			○				
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数		10 人	
					ボランティア登録者人数		40 人	
					参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山
	人権教育		国際理解		託児			キャリア教育(職場体験を含む)
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
			防犯ボランティアとの顔合わせ(4/28)		防災学習(6/4)		深見池学習(7/8)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
・学年ごとに防災学習を実施。阿南消防署、防災士、飯田建設事務所の方等に講師をお務めいただき、担任とTTで防災について学んだ。1年・2年:煙体験(煙の怖さや避難方法について、避難訓練) 3・4年:土石流模型実演 5年非常持ち出し袋について 6年:応急手当(止血と固定、応急担架の作成など) ・防災について、外部の方と一緒に学ぶことで、新鮮な気持ちでより自分事として取り組むことができた。また、参観日に合わせ、親子で学ぶことを通して、家庭でも防災について考えるきっかけとなった。								

学校の概要		学校名	阿南町立 和合小 学校		校長	高本 誠二郎		児童生徒数	9 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある				
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	チーム和合			[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	4月15日、2月15日				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	かしこく やさしく たくましく											
地域と共有された育てたい子どもの姿	和合で育ち たくましく生きる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○		
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	25	人		
								参加者延べ人数	103	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間					
	清掃	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習				
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)				
	人権教育	国際理解		託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	地域花壇の苗植え(6月9日)				念仏踊りの練習(7月20日)				稲刈り(9月26日)			
代表的な協働した活動の取組例(上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○ 全校児童による米づくり 本校では、年間を通しチーム和合のボランティアの皆さんと全校で機械に頼らない米づくりを行っている。児童主体、教科横断的な学習活動を展開し、子どもたちの豊かな感性育成をねらっている。現在までに、もみ蒔き、田おこし、田植え、田の草取り、稲刈り等の活動を終えた。児童は自ら問いを持ち、芽生えた課題を追究し、学びを積み重ねてきている。米づくりの専門家のみなさんから、一連の活動の方法や意味づけ、つながりについて学ぶ中で、他地域(機械化した農業)と和合の米づくりについて比較し、それぞれの良さに気づき、なお一層和合への愛着や手作業、安全性へのこだわりを持ってきた。児童は、米づくりや地域伝統行事の保存活動(念仏踊りの練習)、地域の景観維持活動(地域花壇の管理)を地域の方と共に行う中で自分ごととして捉え、和合の「ひとものこと」に学ぶ活動となっている。今後も児童が、和合の大自然の恵や伝統文化を肌で感じとり、豊かな感性を伸ばしつつ、活動の終末に向けて更に学びを深めていってくれることを願っている。												

学校の概要		学校名	阿南町 立 新野小 学校	学校長	野村 修治	児童生徒数	21 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	新野学校コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	新野学校コミュニティスクール運営委員会(4月15日、1月27日) 花の木なかよし会打合せ会(4月15日) 花の木なかよし会反省会(12月14日)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		新野学校コミュニティスクールコーディネーター		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	進んで学ぶ・やさしい心・じょうぶな体・だいすき新野							
地域と共有された育てたい子どもの姿	心身を成長させ、ふるさとへ貢献できる子ども 郷土から学び郷土を愛する子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	20 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		参加者延べ人数	40 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例								
	小中合同での盆踊り講習会(7月26日)		地域食の日(11月2日)		雪祭り横笛作り(11月4日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
<p>阿南町新野地区には国重要無形民俗文化財が二つあります。一つは「新野の盆踊り」、二つ目は「新野の雪祭り」です。この二つの祭りは室町時代から約600年余り、祖先から受け継いできた宝です。</p> <p>しかし、ここ新野でも少子高齢化が進み、伝統芸能の継承も困難になってきていますが、2002年に地元の方々が協力し「郷土芸能子ども教室」を立ち上げ、小学校3年生から中学校3年生までを対象に、新野地区の伝統芸能、自然、言い伝え、文化財について学ぶ機会を提供していただいています。</p> <p>毎年1月の雪祭りの行列には郷土芸能子ども教室全員の子どもが横笛で参加します。新野小学校では雪祭りに向けて、隔年で5・6年生が雪祭りで吹くための自分の横笛を自分の手で作製します。今年度の横笛の作製は11月4日から始まり、地域の方に来ていただき3回に分けて作製をします。横笛に使用する竹は山から採ってきて、日陰で2年間干した物を使用します。12月から地域の指導者に来ていただき3～6年生が篠笛練習を行い、休日に行われる郷土芸能子ども教室での全体練習を経て、1月13日の雪祭りお下りでの本番に備えます。地域の伝統文化の継承を、学校が地域と協働して行っています。</p>								


学校の概要		学校名	阿南町 立 富草小 学校			学校長	小林 正彦		児童生徒数	52 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	学校関係者会議		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	0 人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人		
会議開催数(予定)	2 回		今年度開催日(予定)		5月18日 1月25日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		
							具体的な役職(他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	みんなながやく富草小 こころ(やる気・やさしさ・助け合い) あたま(楽しむ・つくる・自分から) からだ(いのち・げんき・じりつ)										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく主体的に生活する子ども ・優しい心を持ち、他とともに生きようとする子ども ・富草の人、自然、産業に親しみや関心を寄せ、ふるさとに誇りと愛着を持つ子ども 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		16 人
								ボランティア登録者人数		100 人	
								参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	三紀層大根の種まき(9/9)		ボランティアによる読み聞かせ(5/9)		クラブ活動・防災クラブ(5/31)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
クラブ活動では、手芸・編み物、ふっとふっと体操・空手、ペタンク、バトミントン、将棋、防災ミッションの7つのクラブに地域のボランティアの方が講師として、児童に指導をしてくださっている。年間8回のクラブに、児童が意欲的に活動できるように毎回準備をしてくださり、そのお陰で児童はクラブ活動をとても楽しみにしている。また地域の方々との連携や幅広い経験により、達成感や感謝の気持ちなどの情操が育っている。ボランティアの方も、子どもたちと関わることに喜びを感じ、継続して講師を引き受けてくださっている方が多い。職員も児童と共に、ボランティアの方から学ばせていただいている。											

学校の概要		学校名	阿智村	立阿智第一小	学校	学校長	松澤 徹	児童生徒数	144 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	阿智第一小学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 保育園職員、学童クラブ職員、地域住民			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月2日 2月14日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	かしこく やさしく たくましく									
地域と共有された育てたい子どもの姿	○考えをもって学び、向上心のある子 ○よく聞き、考え、判断し、表現する子 ○やさしく、思いやりのある子 ○自分から明るくあいさつできる子 ○心身ともに、たくましい子 ○自主的に粘り強く最後まで取り組む子									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	30	人	
							参加者延べ人数	15	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		春日の里見学(5/20)			サツキ園剪定作業(6/11)			クラブ地域講師との熟議(9/21)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
・クラブ活動では、発足した10のクラブ全てに地域講師が入り、子どもたちとともに活動していただくことができた。地域講師は14人以上となり、子どもたちのクラブ活動に対する満足度もあった。										
・最後のクラブ活動の後、地域講師と職員とで情報交換し、子どもたちの良い姿とともに、さらに伸ばしたいところを語り合う時間を設けた。職員の気づかなかった子どもの姿を教えてもらったり、課題を共有したりすることができた。地域の方と目指す子どもの姿を共有したことで、子どもたちへの支援・指導に役立てることができた。										

学校の概要		学校名	阿智村 立阿智第二小 学校		学校長	奥原 成子		児童生徒数	86 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
			○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称		阿智第二小学校コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 図書館支援員・友備会事務局			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人		
会議開催数(予定)		2	回	今年度開催日(予定)		1回目 4月15日(金) 2回目 2月21日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		図書館支援員			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		教育目標「学ぶ子 はげむ子」 重点目標「学ぼう」「つなげよう」「たくましく」											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域を活性化する活動を進めていくたくましい子ども。 地域の皆さんに見守られ、支えられて、つながり合い、学び合う子ども。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○
2		学校運営への必要な支援について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3		地域の実情や課題について				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	4		協働活動に参加したボランティアの人数				
5		教職員の任用に関する一般的な要望について					ボランティア登録者人数		30		人		
							参加者延べ人数		50		人		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
		清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○	
		土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		
		人権教育	○	国際理解		託児							
		学校・家庭・地域の協働した取組例											
		放課後学習(5月9日)		大豆種まき(6月13日)		お話の会(7月25日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
2年生が毎年取り組んでいる大豆の栽培活動に、地域の団体「友備会(ゆうびかい)」の方々が指導や手伝いに入ってくださっている。本年度も大豆の種まき、大豆の収穫、大豆の脱穀に参加してくださる計画で進んでいる。大豆の種まきでは、10人以上の友備会の方が来てくださり、11人の子ども達に種まきの支援をしてくださった。専門的に農業に携わっている方も多く、作物についての知識を伝えてくれたり、命の大切さを語ってくれたりする。また、収穫までの成長の様子を丁寧に教えてくださったことが、観察を続けていく子ども達の意欲にもつながっている。今後、収穫できた大豆を使って豆腐や味噌などを作り、お世話になった友備会の皆さんに感謝の気持ちを伝える会を計画していくように考えている。地域や学校のために活動してくださっている友備会の方の思いを学ばせたいと考えている。													

学校の概要		学校名	阿智村 立 阿智第三小 学校		学校長	藤升 覚		児童生徒数	63 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	阿智第三小学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2	人	
				民生児童委員 地域支援ボランティア「協育の会」代表 地域支援ボランティア					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月21日 2月15日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	一 すすんで学ぶ子 二 思いやりのある子 三 心と体を鍛える子											
地域と共有された育てたい子どもの姿	一 基礎基本の力をつけ、主体的で対話的な学びの中で自分の考えを持ち、自分の言葉で伝え合う子 二 自己肯定感を高め、友だちに優しい子 三 元氣な挨拶や返事ができ、地域と積極的に関わる子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4			協働活動に参加したボランティアの人数				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				ボランティア登録者人数			54		人		
						参加者延べ人数			32		人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間			
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
			5年農作業体験(10月12日)			ニジマスの水揚げ塩焼き(8月26日)			和太鼓クラブ(9月22日)			
代表的な協働した活動の取組例												
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
阿智第三小学校の宝物であるニジマスの学習。①発眼卵からニジマスを飼育し、水槽や中庭の池で成長を観察する。②大沢地区にあるマス池で、子どもたちが交代でえさやりをしたり、鳥よけを設置したりしてニジマスを飼育する。③地域のボランティアの方々に、沢の水の引き込みや池の周りの木の剪定、土手の草の管理等をしていただく。④育ててきたニジマスをボランティアの方々と一緒に水揚げし、高学年児童がさばき、塩焼きにしてお世話になった地域の方々やマス池の地主の方に配る。⑤まとめとしてこれまでの学習を振り返り、地域の方々にお礼の手紙を書いてお渡しする。この一連の活動を通して、命の大切さや地域・自然に対する敬愛の思いを育ててきている。今年度はコロナ禍ではあったが、みんなで水揚げしたニジマスを高学年児童がさばき、ボランティアの方々が塩焼きするのを低学年がじっくり観察していた。学校・地域の伝統行事になりつつある。塩焼きしたニジマスは一人一尾ずつ学校でいただくと共に、家庭へ持ち帰り、家庭でも塩焼きを味わいながら、ニジマスから学んだことを家族で共有することができた。マス池の整備作業の時にはボランティアの方々や地域の方々に来てくださり、見守っていただいている。ボランティア・地域の方々から命の学習としての子どもたちの取り組みを認めていただき、「第三小の宝物」としての活動の継続を願っていただいている。												




学校の概要		学校名	阿智村 立 清内路小 学校	学校長	宮澤 昭二	児童生徒数	24 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	清内路小学校学校運営協議会(コミュニティスクール)			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいますか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人				
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人				
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月11日、6月2日、10月21日、2月14日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	その他					
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		家庭料理を味わう会					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	考える子 がんばる子 思いやりのある子										
地域と共有された育てたい子どもの姿	ふるさとに学び、たくましく豊かに生きる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	45 人			
							ボランティア登録者人数	80 人			
							参加者延べ人数				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	○	国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	ほうば巻きづくり(R4.6.14)			織り遊び(R4.9.21)			井戸で水の貴重さを体験(R4.10.12)				
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>・今年度は、クラスの伝統食づくり(ほうば寿司)やクラブの「ほうば巻きづくり」で地域の「家庭料理を味わう会」の方々にお世話になる機会が複数回ありました。この「ほうば巻きづくり」では、児童達はまず学校の敷地内にある「ほうばの木」から自分の顔が隠れてしまうような大きなほうばの葉っぱを取るところから学習活動を始めます。そして「家庭料理を味わう会」の方々のご指導のもと、粉と水をこねて皮を作っていきます。あんを包めるような形にするのはちょっとしたコツと慣れを必要としますが、直接の手ほどきを受けながら、どんどん上手になっていく子ども達。そして自分自身の手でこねて丸めて包んだ「ほうば巻き」を、いよいよ蒸し器に並べて火にかけます。そしてしばらく待つと、ほうばの葉の良い香りがしてきます。ほうば巻きの皮の手触り、蒸し上がっていく時の葉っぱの匂い、子どもの頃のこのような五感を刺激する実体験は、大人になってからも体に刻まれ続けるものです。ふるさとの温かな思い出、ふるさとへの気持ちは、自分が生きていく上での自分自身への気持ちそのものであり、大人になったときに生きていく力そのものになると言えるでしょう。「ふるさと」とは、人間にとって自分そのもの。このほうば巻きづくりは、そんな人間の根っこを創るための、地域と学校との協働によって為される学校教育活動と言え、とても大切にしています。</p>											

学校の概要		学校名	阿智村 立 浪合小 学校			学校長	北原 重一		児童生徒数	39 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある					
			○	地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称			学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)				
			なみあい育遊会相談役 通年合宿センター所長 浪合駐在所巡査			地域コーディネーター			1 人				
会議開催数(予定)			5 回			今年度開催日(予定)			5月19日(木) 7月8日(金) 9月22日(木) 12月6日(火) 2月14日(火)				
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			学校支援コーディネーター				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		○自分で考え、行えるひと ○人のために尽くせるひと ○心と体をきたえるひと											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域の「ひと・もの・こと」とつながり、浪合を愛する子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○			
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				37 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数				50 人			
地域学校協働活動の概要													
登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動			
清掃				ICT				学習ボランティア		総合的な学習の時間支援			
土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動				子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)			
人権教育				国際理解		○		託児		給食			
										給食			
										休み時間			
										放課後教科・体験学習			
										キャリア教育(職場体験を含む)			
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		畑作業(5月18日)				詩吟指導(6月9日)				全校そば打ち会(6月22日)			
代表的な協働した活動の取組例													
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>昨年度、なかなか大きく育たなかったトウモロコシ。浪合は、トウモロコシがおいしいことで有名なのにどうして大きく育たないんだろうと疑問に思った子どもたち。そこで、今年度は浪合学校支援ボランティアの方と一緒に、全学年でトウモロコシ栽培に取り組んだ。土作りや肥料のやり方などをボランティアの方に教えていただきながら、「自分たちのトウモロコシ」を大切に育てた子どもたち。収穫時に大きく育ったトウモロコシを見てとても喜んだ子どもたち。自分たちが作った浪合の美味しいトウモロコシを嬉しそうに持ち帰った。</p> <p>子どもたちは、様々な校外活動や地域の方と関わることによって、自分たちの住む地域に関心を持ち、その素晴らしさを再発見している。</p>													

学校の概要		学校名	平谷村 立平谷小	学校	学校長	権田敬重	児童生徒数	21 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	平谷小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
				民生委員 保育所長、保育所保護者代表 阿智中学校保護者代表 集落支援員、学習支援員 シルバークラブ代表				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1 人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月27日 3月1日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域おこし協力隊(学習支援員)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	かしこく なかよく たくましく ～進んで学ぶ子 思いやり豊かな子 がんばりぬく子～									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<input type="radio"/> 自ら考え自ら判断し自ら行動する子 <input type="radio"/> ありのままの存在を尊重し、お互いに支え合い育ち合う子 <input type="radio"/> 平谷村の人的物的資源を活かした学びをデザインする子									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	10 人		
							ボランティア登録者人数	82 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	○	託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
				5年自由進度学習(6月28日～7月12日)			総合「秘密基地づくり」			
							5,6年理科学習支援(11～3月)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○ 単元内自由進度学習の授業づくりと実践 ・1学期には5年生の国語と算数、2学期は3・4年生の社会と理科と図工、さらには全校による体育の単元内自由進度学習を行った。5年生の国語と算数、3・4年生の社会と理科は授業構想から教材の製作、学習環境の整備や学習カードの準備、さらには授業の実践を地域おこし協力隊で教員免許状をお持ちの鈴木さんが中心となり、本校職員がそのサポートに入る形で行った。12月に行った全校による体育(マット運動)では、本校職員が授業づくり・実践を行い、そのサポートを鈴木さんにいただいた。また、単元内自由進度学習の指導者である東京学芸大学の佐野亮子先生とオンラインで授業づくりについて相談していただくなど、各方面とのつなぎ役にも鈴木さんにはなっていた。本校では今年度から、教育のさらなる魅力化を目的に単元内自由進度学習の取組を始めている。通常の授業と異なり、単元の始まるまでの準備にかなりの時間や手間がかかるこの学習を本校職員の負担をほとんど増すことなく、充実した質の高い学びの実践にできたのは、鈴木さんによるところが大きい。この単元内自由進度学習について多くの児童が「またやりたい」と感想を残しており、本校の目指す「自ら考え自ら判断し自ら行動する子」の具体に近づく実践になっている。										

学校の概要		学校名	下條村 立 下條小 学校	学校長	熊谷 力	児童生徒数	179 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換がある				
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	しもじよっ子カッセイカ会議			[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいますか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人		
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	8	回	今年度開催日(予定)	全体会議 4/13・2/15 学校支援専門会議 5/18・10/5 キャリア教育専門会議 4/21・11/9 健全育成専門会議 6/1・11/30 文化スポーツ専門委員会 4/8・10/12(※中のみ)				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育指導員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		自ら学ぶ子【しっかり学習】 心豊かな子【持とう思いやり】 健やかな子【めざそう じょうぶな子】										
地域と共有された育てたい子どもの姿		1 自立できる子 2 笑顔あふれる子 3 下條を誇れる子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○						
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○						
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○						
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 157 人						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 90 人						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	じゃがじゃが応援団(4/12・5/25・7/7)		ふるさと塾(6/2)		交通安全教室(4/26)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
じゃがじゃが応援団は、文字通り地域の方に教えてもらいながらジャガイモの栽培を行い、収穫されたイモを使つての販売活動及び感謝祭の計画・実施を行う活動です。参加児童は3年生で、種芋植えから地域の方(特に農業に携わっている皆さんで結成されたじゃがじゃが応援団の方)に教えていただきます。実際の作業交流は「種イモ植え」「土寄せ作業」「収穫作業」の3回で、その後は学級内活動として販売活動を地域の人対象で行い、そこで得た資金や収穫したイモを使って活動を支えてくださった皆さんと収穫祭を行います。収穫祭では、地元の芋料理を教えていただいたこともあったようです。(近年は新型コロナの関係で収穫祭は行えていません)子ども達は、はじめは主体的に動けない姿もありましたが、地域の方と育てているという自覚が出てくるとてんとう虫を素手で駆除するなど、農業に一生懸命取り組むようになりました。また、応援団の皆さんからも「子どもから元気をもらえる」という声が聞かれ、地域活性にもつながる活動であると感じます。また、昨年度から地元のJAさんにもご協力をいただき、収穫量を多くするための肥料活用についても学んでいます。												

学校の概要		学校名	売木村 立 売木小	学校	校長	濱中 浩	児童生徒数	26 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	うるぎっ子応援団		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)		①5/23(月) ②12/6(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						公民館職員(公民館長・公民館主事)		
						具体的な役職(他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	「自分からしようとするうるぎっ子」の育成							
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に自信が持てる子ども ・社会規範を守れる子ども ・自分の故郷を誇れる子ども ・優しさを持ち、相手を思いやれる子ども 							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について		○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3	地域の実情や課題について		○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		80 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○	4		参加者延べ人数		40 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解	○	託児			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
(2) 米作り(5年生) 【1ターンで移住されている方々が農業の手助けをしてください】 内容：代かき、田の水見、草取り、稲刈り等 場所：学校がお借りしている田んぼや村の苗床 誰と：地域で農業をしている方々や保護者 成果や効果： ①売木村でお米作りをしていく価値に気づく ②：山留生や保護者、地域の方々と協力し合ってお米作りをしていく大変さと喜び、道具の使い方を体験する ③：1ターンして村に住み、農業を継続していく方々の熱意や思いにふれる								

学校の概要		学校名	天龍村	立 天龍小学校	学校	学校長	伊藤美佐子	児童生徒数	18	名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成						
		市町村教委		○		自治会代表		○				
学校運営協議会(コミュニティスクール)		公民館代表		○		PTA代表		○				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○				
名称	天龍学校CS運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 教育長職務代理、社会教育員				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人	
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0	人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月11日、2月2日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員			
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育委員長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	龍のごとく志をもって学び(かしこく)豊かな感性を磨き(しなやかに)心身ともに健やかに生きる(たくましく)											
地域と共有された育てたい子どもの姿	「天龍力」地域発の豊かな学びを通して、天龍村でなければつかない力を身につける。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	65	人
								参加者延べ人数		48	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間		
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		ブッポウソウ巣箱かけ(4月12日)			天龍ピカピカ大作戦(5月26日)			読書ボランティア(7月5日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
【天龍ピカピカ大作戦】(5月26日) 内容:幹線道路を中心に学区内のゴミ拾い活動を全校で行い、学校に戻ってきてゴミの分別をする。 参加者:児童、職員、教育委員会、役場の方、建設事務所の方、村民の方々 成果:ゴミについて知るために事前学習として5年生に向けて役場建設課の方にゴミの分別についての指導をしていただいた。当日はゴミ拾い・交通整理など児童と一緒に活動をしていただいた。児童もゴミについて会話しながら拾うことで「天龍村を自分たちできれいに」「天龍村をみんなできれいに」という意識が児童の心に芽生えるよい機会となった。												




学校の概要		学校名	泰阜村 立 泰阜小	学校	学校長	小牧 美穂	児童生徒数	71 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	泰阜コミュニティスクール		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	4 人
			・有識者(山村留学施設代表理事) ・主任児童委員 ・社会体育指導員 ・子ども応援隊より代表者 ・保育所副所長(事務局)・子育て支援係相談員・公民館主			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		8 人	
会議開催数(予定)	5	回	今年度開催日(予定)	運営協議会3日間 5/26 9/7 実施 R5 2/7予定(11/9 授業参観)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員	
				応援隊会議2日間 6/9実施 R5 1/24予定		具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	豊かな人間性を持ち、たくましく未来を切り拓く子どもの育成								
地域と共有された育てたい子どもの姿	・泰阜の自然や人から多くを学び、それらを生活に生かしていける子ども ・自ら学び、判断し、創造していく思考、態度、能力を高める子ども ・相手の立場に立って考え、相手の立場になって行い、仲良く協力し合う子ども ・体力の充実を図り、いかなる困難にもくじけない強い意志を持つ子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 50 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について						参加者延べ人数	80 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	○	国際理解	託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
	カンガルークラブ読み聞かせ(月1回)		箆振り体験4/28		自然体験学習7/8				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
(カンガルークラブ読み聞かせ) ・各学年児童の実態や季節に合った内容の本を選び、子どもたちに読み聞かせを行っている。 ・本年度もコロナウイルス感染拡大防止の観点から、各学年毎教室で実施している。(※例年は連学年単位で実施) ・カンガルークラブの皆さんが様々な学年児童と関わるできるよう、ローテーションで各学年の読み聞かせに当たっている。 ・読み聞かせを楽しみにしている姿が見られ、読書が好き、自ら積極的に本を借りて読むようになる児童が増えた。また、様々な物語に触れることで、想像力を豊かに膨らますことのできる児童も増えてつづつある。									

学校の概要		学校名	喬木村	立 喬木第一小 学校	学校長	福澤 則雄	児童生徒数	300 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称		喬木第一小学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 商工会長 村図書館長 保育園長 ボランティア団体代表者 民生児童委員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
		地域コーディネーター		1		人		
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人		
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定) 6月9日(木) 9月26日(月) 2月22日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標		世界の人となるために 力いっぱい今を生きる T:知性(よく学ぶ子ども) K:心(自分も人も大拙にする子ども) G:元気(進んで体を鍛える子ども)						
地域と共有された育てたい子どもの姿		・今後人口が減る中で、地域を支える人材に ・自己肯定感を持てる子に ・あいさつをきっかけに温かい言葉のキャッチボールをしてつながっていく子に ・SNS、ゲーム、動画に振り回されずに、ICT機器を使いこなす子に ・「ふるさと喬木」に誇りと愛着を持てる子に						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		24 人
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		ボランティア登録者人数		68 人
						参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○
		清掃 ○		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)
		人権教育		国際理解		託児		給食
								休み時間
								コロナウイルス対策の消毒・清掃
								放課後教科・体験学習
								遠足・登山
								キャリア教育(職場体験を含む)
学校・家庭・地域の協働した取組例								
		クラブ活動(年間3回)		特産物の学習(7月13日)		麦の学習(年間5回)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
○ 麦の学習について(活動の過程は以下のようにしている) 5年生の秋に麦まきをして、冬に麦踏みを行う。年度をまたいで、6年生の春に畑の草取りをして、夏に収穫し、秋には収穫した麦を使ってピザを作る。 ・JA女性部の中にある「スピカ」というチームが、地域食材として麦を栽培する活動に取り組んでいる。その方々から、学校で児童と一緒に栽培活動を行いたいという提案があり、5年生が取り組んでいる。 ・基本的に野外で行う活動なので、換気やソーシャルディスタンスの確保がしやすく、コロナ対策を徹底しながら取り組むことができています。最後の調理活動については、人数を分けたり、調理場所を増やしたりして、対応しながら進めることを考えている。 ・稲作だけでなく麦の栽培にも取り組むことで、子どもたちは食について考える機会を多く持つことができ、日頃の食事についても意識を高めている。								




学校の概要		学校名	喬木村	立 喬木第二小 学校	学校長	北沢 敦	児童生徒数	35 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	喬木第二小学校学校運営協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人	
			地域ボランティア代表 地域関係団体代表				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月9日(木) 10月5日(水) 2月22日(水)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	保護者(PTA)			
					具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)	PTA役員			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	自ら学ぶ子ども ゆたかな心の子ども すこやかな体の子ども								
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う授業を通して、主体的に学習活動に取り組む子ども ・互いに認め合い、違いやよさを感じ合うことのできる子ども ・地域の人、こと、ものと積極的に関わり、地域を愛することのできる子ども 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	人	
							参加者延べ人数	79 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		クラブ(全4回5/10・5/24・6/16・7/5)		稲刈り(10月3日)		地域講師招聘(全3回6/30・7/15・7/21)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>総合的な学習の時間(3~6年生)「地域の歴史を知る～地域の方にお話を聞こう～」</p> <p>今年度本校が150周年を迎えたことから、「学校・地域の歴史について」学ぶことをテーマに据えた。本校の伝統的な活動「銀嶺太鼓」、学有林を活用した「山学習」、喬木第二小学校の歴史、伝統文化である陶芸「富田焼」についての4グループで、調べ学習を行った。その中で地域の支援者の方々に、インタビュー活動をしたり、お話を聞きしたりし、資料も参考にしながら、Googleスライドで調べたことをまとめた。また、10月22日に行われた「創立150周年記念行事」で、地域の皆さんに向けて発表した。子どもたちは、昔の歴史をよく知ることができ、自分たちが通う学校や地域のことをさらに好きになり、地域のことを大切にしていきたいという気持ちを高めることができた。</p>									




学校の概要		学校名	豊丘村	立 豊丘南小	学校	学校長	牧内 優幸	児童生徒数	246 名									
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																		
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について													
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある										
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)										
学校運営協議会(コミュニティスクール)		○			公民館代表		○		PTA代表 ○									
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアと学校の情報交換会がある								
名称	「豊丘村コミュニティスクール・地域学校協働本部」運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人									
				社会教育委員 民生児童委員 豊丘村子ども課長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人									
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回令和4年 6月 13日(月) 第2回令和4年 10月 6日(木) 第3回令和5年 3月実施予定			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)									
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		豊丘村公民館長									
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																		
学校教育目標	かしこく やさしく たくましく																	
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域のつながりの中で学び合い「夢・希望・誇り」をもてる豊丘の子ども (村CSめざす子ども像)																	
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況													
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○								
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○								
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○								
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		○								
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		ボランティア登録者人数		63 人		○								
						参加者延べ人数		105 人										
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○		読み聞かせ	○		児童会、生徒会	○		クラブ、部活動	○		給食	○		休み時間	○	
	清掃	○		ICT	○		学習ボランティア	○		総合的な学習の時間支援	○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	○		放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	○		地域の伝統文化の継承に係る活動	○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○		防災学習(避難訓練)	○		遠足・登山	○		キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育	○		国際理解	○		託児	○			○			○			○	
学校・家庭・地域の協働した取組例										田植え(5月24日)			クラブ活動の様子(8月31日)			学習サポート(11月7日)		
代表的な協働した活動の取組例																		
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																		
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																		
<p>コミュニティスクールの皆様は、豊丘村を将来支える大切な子どもたちを学校と共に育てていくお手伝いをしたいと使命感を持ち活動に取り組んでくださっている。児童はそんな地域の方々と触れ合い、地域の方々の温かさや地域の方が持つ技術の素晴らしさを感じ「こんな風になりたい」と憧れをもち活動に取り組む姿が見られる。そんな子どもたちの姿を通し、子ども理解、学校の教育活動への理解や関心を深めて頂けると共に、子どもたちと関わり共に活動することにやりがいや喜びを感じてくださっている。教職員も地域の方々の支援の効果を実感し、総合活動や中核活動等でも地域の方々と連携しようとする意識の高まりも見られ始めている。本年度も5学年の総合的な学習「田んぼ」の活動や3学年の総合的な学習「地域探検隊」、「竹の活動」でも大変お世話になった。また、学習サポーターの方々には、各教室へ入って頂き個別支援が必要な児童に対し個別に支援して頂いた。学習サポーターの関わりにより、学習に向かう意欲の高まりも見られつつある。クラブ活動ではクラブサポーターの支援のもと本年度も活動している。新型コロナウイルス感染症の影響があり、活動を縮小することとなったが「8」講座中、「7」講座(フラワーアレンジメント、写真、ゲートボール、スポーツ、和太鼓、木工、手芸)で、クラブサポーターの方々にご協力頂いた。和太鼓は村民体育会、ゲートボールは村スポーツ館、その他のクラブは校内の会場で活動に取り組んだ。地域のもの、こと、人と学校とを繋ぎ、地域と学校とが同じ願いや目標を共有し、活動すると共に、学校教育活動をカリキュラムマネジメントしていくことが今後も大切であると感じる。</p>																		



学校の概要		学校名	豊丘村 立 豊丘北小 学校		学校長	五明 佳代		児童生徒数	127 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	豊丘村コミュニティスクール ・地域学校協働本部)運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会教育委員 民生児童委員 豊丘村子ども課長				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人				
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人				
会議開催数(予定)	3 回		今年度開催日(予定)		第1回 令和4年 6月13日(月) 第2回 令和4年10月 6日(木) 第3回 令和5年 3月		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		豊丘村公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標	心身ともにたくましい子 ・進んで学び究める子 ・仲良く励まし合う子 ・ねばり強くとりくむ子												
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域のつながりの中で学び合い「夢・希望・誇り」をもてる豊丘の子 (村CSめざす子ども像)												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について				○								
3	地域の実情や課題について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 40 人 参加者延べ人数 76 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○ 読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		○ 給食		○ 休み時間		
	清掃		○ ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		○ 国際理解		○ 託児								
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		お雛子ども会への指導(5/17~)				田圃指導(4/21~)				ニコちゃんズ読み聞かせ(7/8~)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>伝統的に受け継がれてきた豊丘村の大宮神社例祭で行われる「お雛子」を平成14年から毎年、北小児童の3~6年が引き継いできた。この2年間、新型コロナウイルスの影響で、春・秋の大宮神社例祭やとよおかまつりでの発表ができなかったが、伝統を絶えさせないよう学校で練習をしてきており、村のお雛子保存会の方々に指導していただいている。そして、今年度は全員参加ではなかったが、大宮神社例祭と「とよおかまつり」に参加できた。</p> <p>ボランティアの皆さんには、河野区一つで成り立っている北小学校を「おらが学校」と思っていたいただいている風土と地域の子どもの地域で育てるという強い意識があり感謝したい。子どもたちも校内で地域の方と関わることに抵抗がなく、挨拶をするなどコミュニケーションをとれるようになってきている。また、昔からの専門的な知識、技能が自分たちに伝承され豊丘(河野)で育ったという自負心が強くなっている。教職員だけでなく、ボランティアの方々に入っていたことで、多くの目、違った視点から子どもたちを見ることができ、新たな専門的な知識や地域の歴史、伝統に触れ、教職員自身の視野が広がると共に経験値が上がり、指導の広がり深まることに役立っている。</p>													

学校の概要		学校名	大鹿村	立大鹿小	学校	学校長	木下 聡	児童生徒数	57 名										
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																			
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある											
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある										
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある									
名称		大鹿「村の学校」協力隊運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人									
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人									
会議開催数(予定)		1 回		今年度開催日(予定)		2月16日(5月18日に開催予定であったが、コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員								
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)											
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																			
学校教育目標		自ら考えつくりだす子(知) やさしさと思いやりのある子(徳) 汗して働くたくましい子(体)																	
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自分から、気持ちのよいあいさつができる子ども。 ・大鹿村のよさを知り、感じ、伝えられる子ども。 ・英語を聞き、話し、世界とつながることができる子ども。 																	
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況														
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○										
2 学校運営への必要な支援について		○																	
3 地域の実情や課題について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。												
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○										
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 30 人										
									参加者延べ人数 110 人										
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		○		国際理解		○		託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例																			
		大鹿太鼓学習(11月9日)				歌舞伎学習(10月26日)				米づくり(6月20日)									
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																			
<p>・地域の伝統文化である大鹿歌舞伎の学習を、大鹿歌舞伎保存会の北村さん、池田さんを講師に、1年生から4年生まで行った。1・2年生は、大鹿歌舞伎の小道具、衣装、所作について学び、地域の公民館に教えきれない程の衣装、小道具が大切に保管されていることを知った。3年生は、歌舞伎や大鹿歌舞伎の歴史について学んだり、実際に歌舞伎の演技の一部を見て、体験をした。250年前から続く大鹿歌舞伎の歴史について学ぶとともに、演じることの難しさを体感した。4年生は、本校で伝統的に練習している歌舞伎の演目「大鹿歌舞伎 白波五人男」の練習を始めた。毎年目にしてきた4年生の児童による大鹿歌舞伎を今年はいよいよ自分たちが演じるのだと意気込み、日々の練習に取り組んでいる。歌舞伎学習の活動は、児童が、地域の方から学び、自身も伝統文化を守る一人であるという自覚と誇りを育んでいる。</p>																			

学校の概要		学校名	飯田市立 飯田西中 学校		学校長	宮下 寿男		児童生徒数	227 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
				地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の 学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	丸山小・飯田西中学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 まちづくり委員会会長、公民館主事			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外に在るか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	3	人		
							地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)				人		
会議 開催数 (予定)	3	回	今年度 開催日 (予定)	5月11日 7月11日 2月9日			中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		公民館主事					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標	自主・敬愛・誠実												
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	[確かな学力]自ら学ぶ子 基礎学力を身に付ける子 [豊かな人間性]相手の思いに寄り添う子 地域に愛着と誇りをもつ子												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○									
3	地域の実情や課題について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4			協働活動に参加したボランティアの 人数		ボランティア 登録者人数	15	人	
									参加者延べ 人数		15	人	
地域 学校 協働 活動 の 概 要	登下校の見守り	○	読み聞かせ		児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習	○	
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(こども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場 体験を含む)	○	
	人権教育		国際理解		託児								
	学校・家庭・地域 の協働した取組 例	写真			写真			写真					
			活動名(日付)			活動名(日付)			活動名(日付)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
・「安心・安全」「自ら行動する子供の育成」「確かな学力」「地域の文化・スポーツ」「少子化における教育環境の充実」の5つのグループに分かれ、語り合う場を設けた。まちづくり委員、学習支援員、スポーツクラブ、科学工房の方々と情報共有したり、課題について考え合ったりする機会を設けた。													




学校の概要		学校名	飯田市 立 飯田東中 学校		学校長	賜 正俊		児童生徒数	200 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	東中協力者会議			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	3 人		
				主任児童委員 生活安全委員長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月12日 6月17日 1月16日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		聡明 自主 愛他										
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・心静かに見聞きし、じっくり考える子ども ・自ら進んで、粘り強くやり遂げる子ども ・相手の立場になって心を尽くす子ども 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数			人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4			ボランティア登録者人数			人	
									参加者延べ人数			80 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
			りんご並木の活動(年間)			繫・未来フェス(10月3日)			桜並木落ち葉掃き(10月29日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>本校では、昭和22年ごろより学友会の活動として町内清掃が行われている。その当時は、飯田大火で荒廃したまちを美しくしたいという思いで始まった活動で、毎週日曜日の朝に行われていた。時代の移り変わりとともに町内清掃は、毎月第1土曜日の朝の活動へと形を変えつつ残っていたが、町内清掃の意義や生徒の意識が薄れ、形だけが残っていた。令和3年度の学友会では、持続可能な学友会活動という視点で、活動の見直しを行った。町内清掃を、学校独自で行うのではなく、地域を巻き込んだ活動、地域の役に立つ活動にしたいという願いのもと、地域の環境委員長さんのお話を聞きました。その中で、飯田市は街路樹が多く、秋の落ち葉掃きに苦労していることを知り、お世話をしているりんご並木からつながっている桜並木の清掃活動に取り組むことになった。今年度は、10月29日、11月12日の2回実施した。回覧板を使って地域の方に呼びかけ、公民館からの働きかけもあり、並木周辺に住む方々や保護者の協力を得て、落ち葉掃きを行うことができた。生徒は、落ち葉がなくなった桜並木を見て、達成感を味わった。また、地域住民や桜並木保存会の方々から、感謝の声をいただくことができ、まちをきれいなという目的を果たすことのできる活動となった。</p>												

学校の概要		学校名	飯田市 立 旭ヶ丘中 学校		学校長	市場 香代子		児童生徒数	561 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称		旭ヶ丘中学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任民生児童委員 医師			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人	
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)		2	回	今年度開催日(予定)	①5月27日(金) ②2月17日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		自分を生きる ともに生きる 豊かに生きる										
地域と共有された育てたい子どもの姿		【晴明】学校や郷土を愛し周囲と関わり合いながら自立に向かう人間 【敬愛】心を開き、仲間を大切にしながら支え合って成長していく人間 【探究】汗して学び、確かな学力を身につけることができる人間										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2		学校運営への必要な支援について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3		地域の実情や課題について				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	4		協働活動に参加したボランティアの人数			
									ボランティア登録者人数	561	人	
									参加者延べ人数	200	人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り	○	読み聞かせ		児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
		清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児						
												
		1年かやの実チャレンジ(10/13,14)		2年キャリアフェスティバル(10/13)		福祉体験活動(5/25)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)												
・2学年生徒が、旭ヶ丘中学校区である、伊賀良・山本の事業所に目を向け、地元で活躍する身近な大人の姿から、自身の将来を模索する目的で「キャリアフェスティバルinASAHI」を計画・実施した。生徒一人一人が、通学路で目にしてきている身近な商店や企業など多業種を選び、仕事内容をはじめ働くことの意義などについて、体験活動を交えながら話を聞き、目指す大人像を主体的に模索する機会となった。中学生が、公民館長や公民館主事に事業所との仲介を手助けしてもらいながら、地元の様々な業種の大人と関わることで、旭ヶ丘中学校区の目指す子ども像「伊賀良・山本のひと・もの・ことに積極的にかかわって学び、地域と共に生きていく児童生徒」に自ら近づくことができる活動となっている。												

学校の概要		学校名	飯田市	立 緑ヶ丘中	学校	学校長	湯本 正芳	児童生徒数	642 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委	<input type="radio"/>	自治会代表	<input type="radio"/>	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	<input type="radio"/>	PTA代表	<input type="radio"/>	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	<input type="radio"/>	学校長・教頭以外の学校職員	<input type="radio"/>	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	緑ヶ丘中学校学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		
				主任児童委員 地域スポーツ推進員 学習ボランティア			地域コーディネーター	3	人
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月26日(第1回)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
				6月29日(臨時)		11月7日(第2回)		具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)	
				2月16日(第3回)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	「みどりの心」を磨き、自己を知って真理を究める緑中生								
地域と共有された育てたい子どもの姿	自己の高まりを感じ、互いを認め合える生徒								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			<input type="radio"/>	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			<input type="radio"/>
2	学校運営への必要な支援について			<input type="radio"/>					
3	地域の実情や課題について			<input type="radio"/>	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			<input type="radio"/>
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			<input type="radio"/>	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			<input type="radio"/>	4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	
								参加者延べ人数	40
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	<input type="radio"/>	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	<input type="radio"/>	給食	休み時間	
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	<input type="radio"/>	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	<input type="radio"/>
	人権教育		国際理解	託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
		ツアーオブジャパン事前講演会(5月9日)		1年生木工教室(7月9日)		キャリアフェスティバル実行委員会(6月30日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>・キャリアフェスティバル(結い未来プロジェクト)では、公民館主事、事業所代表、学校職員によって参加事業所を募集し、生徒を含めた実行委員会を立ち上げ、参加いただく全ての事業所と生徒代表が事前の打ち合わせを行った。企業側としては生徒の願いを受け止める形で当日の発表内容や方法を工夫することができ、生徒側としては、実行委員から参加する生徒へ企業の情報が伝えられることで、より身近で意欲的に取り組むことができるようになった。また、コロナ禍によって校外での職場体験が中止となる中、生徒が働く意義ややりがいなどを、働く人たちからの生の声として聴くことができる貴重な機会となった。</p>									

学校の概要		学校名	飯田市	立 竜峡中	学校	学校長	渡邊 享秀	児童生徒数	143 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	竜峡中学校運営協議会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	3 人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人		
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	4月21日(木) 6月28日(火) 11月25日(金) 2月14日(火)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事 教頭			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	自主・敬愛・勤勉										
地域と共有された育てたい子どもの姿	「自らの人生を切り拓いていく力」をつけた中学生										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数			
								ボランティア登録者人数	4 人		
								参加者延べ人数	15 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		キャリアフェスティバル(7月21日)		3地区清掃(7月24日)		ふるさと学習(10月20日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
○ふるさと学習について 1学年において、「私たちのふるさと竜峡を知ろう」をテーマにふるさと学習を行った。飯田市よりマイクロバスをお借りして、三穂地区の旧小笠原書院、龍江地区の今田人形の館、川路地区の天竜峡散策と竜峡3地区の特色ある場所を訪問、見学した。近くにあってもなかなか訪れる機会のない場所をじっくりと見学することができ、テーマである「ふるさと竜峡を知る」という目的を達成することができた。											

学校の概要		学校名	飯田市	立 竜東中	学校	学校長	持田 貴康	児童生徒数	71 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	竜東中学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		
			地域コーディネーター	3	人	地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4月22日(金) 12月21日(水) 2月16日(木)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	ゆたかさ・たしかさ・たくましさ								
地域と共有された育てたい子どもの姿	主体性を育み「一歩進んだ私」になる ・どんなことにも主体的に一生懸命に取り組み、いかなる困難に直面しても一歩踏み出す気力をもった生徒 ・違いを認め、自分はどう生きるかを考え判断し、思いやりの心をもって一歩踏み出し行動する生徒 ・やりたい自分に向けて自分の成長した小さな一歩が自覚でき、自己肯定感や自己有用感が高められる生徒								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数		9	人
						ボランティア登録者人数		9	人
						参加者延べ人数		9	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃		ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
	第11回ふるさと竜東の集い(11月1日)			よこね田んぼの稲刈り(9月5日)		部活動支援(通年)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
・ふるさと竜東の集いは、今年度11回目の実施となった。新型コロナウイルス感染拡大予防のため参加者を縮小して実施した。参加者は、校区四小学校の6年生、中学生、学校職員、保護者、中学校区CS委員及び学校運営協議会委員(地域住民)の約140名でした。 ・当日は、熊谷飯田市教育長に参加していただきご挨拶をいただきました。オープニングでは中学生が全校合唱を発表し、小学生や地域の方に初めて聞いていただきました。全体会では、テーマ「地域と学校ともに考えようSDG's」とし、中学生代表が昨年度のテーマや取組からつながりを持った活動の3つの提案がされ、分科会へとつながる発表をしてくれました。地域代表としては上久堅の地域おこし協力隊の方に、都会と田舎の違いや田舎の魅力、これからの可能性(空き家対策など)について話していただきました。 ・分科会では、中学生が選んだ6つのテーマの中から分科会ごとテーマを選択して「良さ」「課題」「わたしたちができること」について、様々な地域、様々な年代の人が一緒になって話し合いをしました。お互いに意見を出し合う中で、新たな地域の魅力を発見したり、課題を明らかにしたりして、ふるさと竜東のこれからのことについて考え合うことができました。									



学校の概要		学校名	飯田市立 立 鼎中 学校			学校長	齊藤 辰幸		児童生徒数	348 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		かなえコミュニティスクール				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
						<ul style="list-style-type: none"> 子どもを育む委員会委員長 主任児童委員 市スポーツ推進委員 		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月18日(水), 10月24日(月), 2月24日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自主 誠実 友愛											
地域と共有された育てたい子どもの姿		郷土に愛着と誇りを持ち、自己実現を図る鼎の子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 22 人		参加者延べ人数 440 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習 ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
								鼎地区成人式のボランティア(5/4)		親子農業体験中学生ボランティア(5/28)		放課後学習室(4月～)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
今年度、まちづくり委員会、公民館の協力を得て、「ジュニアボランティアステーション」という組織を立ち上げた。それまでの学校が準備したお仕着せのボランティア活動への参加ではなく、地域から依頼のあった事業や活動に生徒が自主的に参加できる仕組みを整えた。今年度、地域から依頼された件数は38件。(参加できなかったものを含める。11.17時点) 内容は成人式や地区の納涼祭、文化祭などのスタッフ、美化活動(ゴミ拾い、公園清掃他)、絵手紙交流、公民館主催の農作業体験のスタッフなど多岐にわたる。コロナの影響で参加できなかったものもあるが、参加延べ人数は、78名。(11.17時点) である。参加した生徒の感想からは、ボランティア活動を通して、地域に貢献している満足感や地域の大人とかかわりをもてることの喜び、地域の魅力に改めて気づいたり、新たな発見をしったりするなど、地域の方との関わりから様々なことを学んでいる様子がうかがえる。自己肯定感や自己有用感にもつながっている。													

学校の概要		学校名	飯田市立高陵中学校		学校長	高山 和夫		児童生徒数	509 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	高陵中学校区「飯田コミュニティスクール」学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2	人	
				・上郷小学校長 ・座光寺小学校長 ・飯田高等学校長 ・飯田女子高等学校長 ・飯沼交番所長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月27日 10月27日 2月6日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		常に一流たるをめざし、意気と希望と人の和をもって、明るい高陵中学校をつくる										
地域と共有された育てたい子どもの姿		意気と希望と人の和で未来を拓く子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。						
2	学校運営への必要な支援について											
3	地域の実情や課題について				2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	35	人		
								参加者延べ人数	240	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	防災学習(避難訓練)		○	放課後教科・体験学習
	人権教育		国際理解		託児							キャリア教育(職場体験を含む)
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	全校総合:水質検査(6月17日)			合唱クラブ発足会(6月22日)			黒田人形劇部(4月～)					
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
・SDGsの11の目標「住み続けられるまちづくりを」に焦点をあてて、「中学生にできることは」をテーマに、総合的な学習の時間を用いて全校生徒で取り組んだ。個々に追究したいテーマを考え、同じようなテーマごと講座に別れて取り組んだ。各自追究する過程で、講師の方に助言をいただく必要が生じたテーマもあった。例えば、川の水質調査では、市の環境課職員に、地域の観光案内では、座光寺公民館職員に等と、学校へ招待したり、現地へ赴いたりして、個々が追究したいことに具体を持つことができた。回を重ねるごとに、校外活動を行う講座や個人が増えたため、学校職員では対応しきれなくなり、学校長の発案で、地域ボランティアを募集した。募集については、上郷・座光寺の各公民館に協力依頼し、17名ほどの見守りボランティアの方に登録していただいた。このことによって、今まではあまりできなかった校外活動をスムーズに行うことができ、個々の追究にも幅と深みを持たせることができた。												

学校の概要		学校名	飯田市	立 遠山中	学校	学校長	田中 和恵	児童生徒数	27 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	遠山中学校学校運営協議会 遠山三校合同学校運営協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 民生・児童委員 スポーツ推進委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	3 (合同は3)	回	今年度開催日(予定)	第1回 令和4年4月15日(金) 第2回 令和4年10月13日(木) 第3回 令和5年1月26日(木)	合同第1回 令和4年5月20日(金) 合同第2回 令和4年11月26日(土) 合同第3回 令和5年2月6日(月)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館主事	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	「みがきあい」 切磋琢磨・明朗誠実・郷土敬愛								
地域と共有された育てたい子どもの姿	「郷土を愛し、誇りをもち、遠山郷を担っていく人材の育成」・自分で考動できる子ども ・自ら課題を見つけ、主体的に学ぶ子ども ・ふるさとを愛し、ふるさとの中で生活している自分を見つめ、ふるさとの未来と自分達の夢を創造していける子ども ・心も体も自立した子ども ・人と関わりながら豊かな心を持ち、時と場に応じて適切な言動ができる子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について		○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3	地域の実情や課題について		○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用可能な部屋との兼用でも可)		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	0 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について							参加者延べ人数	30 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	国際理解	託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例									
御池山登山(7月20日)		学有林学習(9月10日)		「郷土の舞」の練習(9月)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>本校では昭和29年に設けられた約17haの学校林を所有している。この学校林を生かした学習活動として「学有林学習」が行われている。PTA組織に「施設学有林部」があることも特徴的である。学有林学習では県と市の林務課、飯伊森林組合、栄林社など地域の林業関係者のお力添えをいただいている。</p> <p>学習の実際は、実地学習の前に座学を行い、SDGsの視点から森林が私たちの暮らす地域だけではなく、海洋環境にまで影響を及ぼすことや、林業の未来について学んだ。事前学習の翌日、学校林へ行き実地学習を行った。前年度は学校林への道路が崩落し、通行できなかったため2年ぶりの作業学習となった。本年度は昔ながらの手作業による伐採と機械化された伐採との違いを学んだ。その中で安全なチェーンソーの使い方を教えていただき実際に操作する体験も行った。地域で林業に従事する方々の手際良い作業を間近で見学したことで、進路選択の一つとして考える生徒もいた。「学有林学習」は地域の支えなしには成り立たない伝統的な学習行事となっている。</p>									




学校の概要		学校名	松川町	立松川中	学校	学校長	渡邊 浩	児童生徒数	327 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		松川町保・小・中学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人				
					地域住民、ボランティア代表、主任児童委員		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1 人				
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月12日 10月6日 12月15日 2月		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 教育委員会職員					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		生涯学習課嘱託職員					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自ら考え、正しく判断し、行動できる生徒											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・夢や目標に向かって努力し、いきいきと学ぶ生徒 ・集団の中で仲間と協調し、関わり合いを広げる生徒 ・保護者や地域に信頼され、地域に元気を与える生徒 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 53 人 参加者延べ人数 430 人				
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		○ 給食		○ 休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		地域の方の読み聞かせ(毎月1回)		2年しごと☆未来フェア(準備会)		3年総合地域講座(発表会)							
代表的な協働した活動の取組例													
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・しごと☆未来フェアは、2学年の生徒を対象に11月に開催予定である。学校としては「地域を支える様々な職場で働く方のお話を聞いたり、職業に関わる映像や資料を見たりすることを通して、地域で働く人の姿から「地域で働くこと」の喜びや大変さを知り、自分自身の将来の夢や進路を考えたり、選択したりしていくための機会とする」というねらいがある。地域としても「将来を担う中学生が地域企業を知り、郷土につながるキャリア教育。地域の次世代育成⇒「松川町でステキに生きる若者を」子どもの進路選択の一つに「地域」をいれたい。」という願いがある。両者のねらいと願いを地域コーディネーターがつなぎ、「生徒が主役」ということと「同世代の中学生との交流を深める」という点で、今年度は大鹿中生とも一緒に打ち合わせを行いながら、計画を立てた。当日は町の公民館「えみりあ」を会場にして、各事業のブースを自分で選択して巡り、たくさんの方から話を聞いたり、仕事内容の体験をする予定である。体験を通して、働くことの楽しさやキャリア(生き様)を直接お聞きし、楽しみながら働くことへの希望を持てることを願っている。</p>													

学校の概要		学校名	高森町立 高森中 学校		校長	上澤 浩		児童生徒数	428 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委 ○ 自治会代表 ○			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール) ○			公民館代表 ○ PTA代表 ○			○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員 ○ 学校長・教頭以外の学校職員 ○			ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称			小原ヶ丘コミュニティスクール運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
			・部活動外部指導者代表 ・商工会会長 ・JAみなみ信州高森支所長			地域コーディネーター 2 人			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人			
会議開催数(予定)		6 回		今年度開催日(予定)		第1回小原ヶ丘コミュニティスクール運営協議会 5/9 第2回小原ヶ丘コミュニティスクール運営協議会 1/26 高森町小中学校運営協議会4/21, 10/20, 12/6, 2/14		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			公民館長・公民館主事			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		【三自の精神】自主:自ら課題を見つけ、主体的に考え、解決する 自律:自らを律し、自ら判断し、行動する 自省:自ら見直し、互いに認め合い、たくましく生きる										
地域と共有された育てたい子どもの姿		・自分から進んで挨拶のできる子ども ・主体的なものごとに取り組み、学んでいける子ども ・自分の考えや思いを進んで伝えられる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		100 人		ボランティア登録者人数		
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数		80 人		参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		
		人権教育		国際理解		託児				休み時間		
		高森の時間 R4・8/26		地域応援隊活動 R4・9/15		流しそうめんギネス挑戦 R4・11/5				放課後教科・体験学習		
										キャリア教育(職場体験を含む) ○		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
【高森の時間】《内容・取り組み》 ・高森の時間(3年)では、高森の活性化に向けて、町の行政職員や地域の方と一緒に活動に取り組んだ。生徒による企画書をもとに、市田柿・観光・環境・竹活用・農業・自然未来設計の6グループに分かれ、総合的な学習の時間を中心に活動を重ねた。11月の参観日に保護者やお世話になった地域の方々へ取り組みの様子を発表した。また、町企画の活動と一緒に参加したり、成果を外部に発信した。 《成果・効果》 ・地域の方と共に活動する中で、地域に関心をもち、互いに協力し合いよりよい活動にしようとする意欲的に取り組む姿が育った。継続的な活動や体験を通じて、皆で力を合わせて目標を達成する喜びや充実感をもつ姿がたくさん見られた。 ・中学生の取り組みの様子を学校だよりや地域の広報、ケーブルテレビなどを通して発信する中で、地域の方々が学校や生徒の取り組みを理解し、協力していただき、地域と共に歩む学校づくりにつながった。												

学校の概要		学校名	阿南町	立阿南第一中	学校	学校長	田本けい子	児童生徒数	67名												
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○		ボランティアのリストがある											
		市町村教委		○		自治会代表				ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		PTA代表		○	ボランティアと学校の情報交換会がある									
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある											
名称		阿南第一中学校学校支援会議			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1人											
		<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員(会長・主任児童委員) ・駐在所所員 ・歴代PTA会長代表 ・社会福祉協議会担当 							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人										
会議開催数(予定)		2回		今年度開催日(予定)		第1回 6月27日(月) 第2回 1月27日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員											
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)													
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																					
学校教育目標		[知]主体的な学び・[徳]思いやりの心・[体]健やかな体																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		本年度重点目標 『自立・自律』 [知]「なぜ?」を大切にしよう [徳]自分の考えも友の考えも大切にしよう [体]かけがえのない命・体を大切にしよう																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。														
2 学校運営への必要な支援について		○																			
3 地域の実情や課題について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。														
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)														
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 15人												
									参加者延べ人数 100人												
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食				休み時間	
		清掃		○		ICT						学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
		人権教育				国際理解		託児													
学校・家庭・地域の協働した取組例											総合的な学習の時間スタートナビ(5/9)		キャリアフェス(5/30)		地域清掃(10/20)						
代表的な協働した活動の取組例																					
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																					
<p>「総合的な学習の時間スタートナビ」では、生徒が総合的な学習の時間で追究していく地域をテーマにした材を主体的に決め出すための企画を行った。阿南町役場と社会福祉協議会に協力を得て、農業・防災・観光・福祉・産業・文化の6ブースを設置。各ブースでは、町や社協の担当者が専門的な立場から町の現状や課題、中学生に望むことなどをプレゼンテーションしていただいた。</p> <p>これまで、地域課題を決め出すのに、生徒の限られた経験や担当職員の調査力に頼って対応していたため、深まりや広まりに課題を感じていた。そこに、地域の方の力をお借りすることで、より詳しく具体的な情報を得ることが出来た。また、生徒が決めたテーマを追究するのに、困ったときに頼れる先を得ることが出来て、追究が進みやすくなった。</p> <p>地域に「お願いする」学習から一歩進んで、地域と「共に学ぶ」、中学生が地域へ「貢献する」ような学びに発展する可能性が感じられ、今後もさらに地域との連携・協働を進めたい。</p>																					

学校の概要		学校名	阿南町	立 阿南第二中 学校	学校長	大澤 忠史	児童生徒数	20 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	新野学校コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人		
			民生児童委員地区会長 青少年健全育成会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	第一回 4月15日【中止】 臨時 7月4日 第二回 1月27日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		新野学校コミュニティスクールコーディネーター			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		知を耕す・心を磨く・体を育む									
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・郷土から学び、郷土を愛する子ども ・心身を健やかに成長させ、ふるさとへ貢献できる子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		14 人		
						ボランティア登録者人数		25 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間					
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習				
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)				
	人権教育	国際理解	託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
			東町花壇定植(6月6日)			紅樹山下草刈り(6月16日)			盆踊り講習会(7月26日)		
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>37年前、当時の生徒の「貴重なハナノキ群生地である紅樹山の自然を守りたい」という願いから始まった紅樹山の草刈りを、今年度も新野学校協力会の方々と行った。今年度は作業時間確保のため、職員と生徒はバスで現地へ向かった。例年同様、1年生は協力会前会長さんに案内してもらいながら、紅樹山に自生するニッコウキスゲやササユリなどの希少植物を見て学習し、2・3年生が中心となって紅樹山および大村湖周辺の下草刈りを行った。下草と一緒に貴重な植物を刈ってしまわないよう、足元や場所に注意しながら、新野学校協力会の皆さんと一緒に作業に取り組んだ。約1時間の作業で、道路側の山肌と遊歩道沿いの下草がきれいになり、道からもはつきりニッコウキスゲが見えるようになった。生徒たちは、今年度も伝統を受け継いで、新野の玄関口に咲く貴重な植物を守る活動ができたことに喜びを感じ、誇らしい思いをもつことができた。</p>											

学校の概要		学校名	阿智村	立阿智中	学校	学校長	竹内 良之	児童生徒数	182 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	阿智中学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 学区内学校代表(小学校・高校)			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1 人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月2日(木) 2月14日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	自ら考え行動できる力(自主) 強い心身と豊かな心(清明) 共に磨き合う態度(協同)								
地域と共有された育てたい子どもの姿	① 基礎的・基本的な学力を習得し意欲的で豊かな表現力を持つ生徒の育成 ② 相手の存在を意識し、自他ともにより良く生活のできる調和のとれた学級、所属感や存在感を感じ合える集団の育成								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	50 人
								参加者延べ人数	80 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育	○	国際理解	託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
1年生対象に実施される『キャリアメッセ』とは、阿智村内の11の事業所が授業日に中学校の体育館にブースを設け、生徒とその保護者が自分が興味を持った事業所のブースに出向き、事業所の職員から事業の説明を受けたり説明の内容に生徒が質問をしたりして、地域企業の工夫や働くことに対する意識だけでなく、進路実現へ向けての実際やキャリアの積み方など学ぶことのできる機会である。1学年の生徒達は、『キャリアメッセ』を中心に、社会にはどんな仕事があるのかを学び、2学年の生徒達は、1年生時に学んだ知識をもとにして、実際に受け入れてくださった職場に2日間出向いて体験することで、働くことの価値を実感することができる。2年生で行われる職場体験学習と関連性を持たせた学習である。									

学校の概要		学校名	下條村 立 下條中 学校			学校長	小林 康彦		児童生徒数	108 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		しもじよっ子カッセイカ会議				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		10 回		今年度開催日(予定)		・全体会 … 4月13日 2月15日 ・学校支援専門委員会 … 5月18日 10月 5日 ・文化スポーツ専門委員会 … 4月 8日 10月12日 ・キャリア教育専門委員会 … 6月 2日 11月 9日 ・健全育成専門委員会 … 6月 1日 11月30日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域連携担当職員			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		雄々しきさとたゆみなさ心で「一所を打開し万所を開く」下條中学校 ① 学力の向上(知) ② 豊かな心(徳) ③ 心身の鍛錬(体)											
地域と共有された育てたい子どもの姿		① 自らの手で未来を切り開くたくましい生徒 = 「剛」 ② 自他共に認め合い温かな人間関係を築ける生徒 = 「愛」 ③ 何事にも誠実に精一杯取り組む生徒 = 「誠」											
運営委員会または学校運営委員会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 50 人		参加者延べ人数 70 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		○ 給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		下條歌舞伎の学習(6/3～10/13)		職場体験(8/30～9/1)		中学生村づくり意見交流会(7/11)							
代表的な協働した活動の取組例													
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
毎年1学年で行っている下條歌舞伎に関する学習では、下條歌舞伎保存会の3名の方に来校していただき、6月～9月のほぼ毎週金曜日に、1時間ずつ演目の「菅原伝授手習鑑～寺子屋～」の第3場面の台詞練習をご指導いただいた。台詞練習については体育館や総合学習室を使い、暑さの厳しい時期は空調設備のある教室で行った。成果としては文化祭での発表へ向けて、生徒は保存会の方々インタビューをし、歌舞伎保存会ができた経緯や活動内容、悲しかったことや嬉しかったことなどをパワーポイントにまとめ発表することができた。また、それ以外の生徒もインターネットにより歌舞伎に関する歴史、衣装、隈取り、舞台について調べ、パワーポイントにまとめ発表することもできた。演目の台詞については、最初は生徒も大きな声を出したり、抑揚をつけて表現することに抵抗があったが、保存会の方々の粘り強いご指導により、生徒たちの表現力は次第に高まり、休み時間や授業の合間に級友同士で歌舞伎の台詞を喋っては楽しんでいる様子も見られるようになった。文化祭でも生徒は精一杯の表現力を披露できた。さらに最後の感謝の気持ちを伝える会では、生徒一人一人から歌舞伎を通じて学んだことや感謝の言葉を伝えることができた。課題としてはコロナ禍のため、所作を付けた演目の発表を体験させられない点である。													

学校の概要		学校名	売木村	立 売木中	学校	校長	濱中 浩	児童生徒数	16 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		○	自治会代表		○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の 学校職員		○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	うるぎっ子応援団			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人
							地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)		人
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	①5/24(月) ②12/7(火)			中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		公民館主事	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	「自分からしようとするうるぎっ子」の育成								
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に自信が持てる子ども ・社会規範を守れる子ども ・自分の故郷を誇れる子ども ・優しさを持ち、相手を思いやれる子ども 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数	80 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4			参加者延べ人数	40 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
(2) 盆踊り・売木音頭の練習 内容：売木村の伝統行事である盆踊りと売木音頭の踊り方を、村の方に直接指導していただく 場所：売木小中学校体育館 誰と：村の音頭取りの方々3名 成果や効果： ①売木村の伝統に触れる機会 ②村の一員としての自覚を高める機会 ③山村留学生や1ターンのご家庭は、コロナ禍で盆踊りも実施されてこなかったため踊りを詳しく知る機会									

学校の概要		学校名	天龍村	立天龍中	学校	学校長	塩澤孝仁	児童生徒数	12	名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティスクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	天龍学校CS運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 教育長職務代理、社会教育委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0	人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月11日、2月2日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育委員長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	「自主」自ら学び、自ら行う生徒 「敬愛」 尊重し合い、善を求める生徒 「錬磨」 たくましく、さわやかな生徒											
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域とのかかわりを大切にし、地域とひとつになろうとする生徒 課題解決に向かって協働的に取り組み、達成感を共有する生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	30	人
								参加者延べ人数		15	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間						
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習					
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		○	
	人権教育	国際理解	託児									
	  											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
林業体験における地域産業体験学習 キャリア教育の一環として地域に根ざした産業を体験する学習。林業体験では地域の林業従事者を講師にお招きして、間伐、製材、加工の体験を3年周期で行っている。今年度は間伐を体験する年にあたり、学校近くの学有林へ行き、間伐体験を行った。3学期は、間伐して小さく輪切りにしてきた木材を使って、鉛筆立てやコースターなど、簡単にできる作品製作を実施する予定。生徒はこれらの活動を通して、職業観や勤労観を育むと共に、職業人との交流を通してその人の生き方の魅力に触れたり、地域の林業について考えたりして、自らの生き方や学び方について考えることができた。												

学校の概要		学校名	泰阜村	立 泰阜中	学校	学校長	飯島 政樹	児童生徒数	39 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		泰阜コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)					
		・有識者(山村留学施設代表理事)			地域コーディネーター		4 人						
		・主任児童委員			地域学校協働活動推進員(教育委員会委員の委嘱を受けた者)		8 人						
		・社会教育委員長											
		・子ども応援隊代表											
		・保育所長(事務局:子育て支援課係相談員・公民館主事)											
会議開催数(予定)		5 回		今年度開催日(予定)		運営協議会3日間 5/26 9/7 実施 R5 2/7 予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
						応援隊会議2日間 6/9 実施 R5 1/24 予定		教育委員会職員					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		さわめよう 泰阜らしさを 「信頼」「錬磨」「寛容」											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・心を込めて取り組み、思いを表現しながら、人や地域に貢献できる生徒 ・自分のよさと友のよさを理解し、切磋琢磨しながらそれを伸ばそうとする生徒 ・自他の命を大切に、思いやりの心を持ち、人権感覚が高い生徒 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○						
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。								
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)								
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		50 人				
							参加者延べ人数		80 人				
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○ 読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		○ 給食		○ 休み時間	
		清掃		○ ICT		○ 学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		○ 放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		○ 国際理解		○ 託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		カンガルークラブの読み聞かせ(年8回)		体育武道の授業「弓道」(10月)		公民館芸能発表会参加(11/3)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
【弓道学習】 <ul style="list-style-type: none"> ・2012年から武道が必修化されたことを受け、毎年、保健体育の学習として村内で盛んな弓道に2、3年生が取り組んでいる。 ・体育館で基本を学び、15メートルほどの距離から射る練習を重ねる授業を経て、3年生は総仕上げとして最後の授業を村内の弓道場で行った。(上記の写真は弓道場での様子です) 生徒と一緒に体験する職員もいる。 ・前村長をはじめ、村の有段者が指導してくださっている。今年度は4名の方にご指導いただいた。 ・礼儀作法から始まり、自らを鍛錬するきっかけとなった。生徒たちは落ち着いた雰囲気の中、真剣な表情で的を見つめ、背筋を伸ばし懸命に弓を引いていた。大変貴重な時間である。 ・毎年行っているこの授業をきっかけに、高校の部活動で弓道を選択し活躍している生徒もいる。 													

学校の概要		学校名	喬木村 立 喬木中 学校	学校長	武井 利博	児童生徒数	178 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表 ○ PTA代表 ○		ボランティアと学校の情報交換会がある								
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	喬木中学校 学校運営協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)							
			○主任児童委員 ○社会福祉協議会会長 ○スポーツ指導者 ○地域代表者		地域コーディネーター	2	人					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回 6月9日 第2回 10月13日 第3回 2月22日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	公民館職員(公民館長・公民館主事)						
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	公民館長							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	○自主・自律 ・声を出し、汗を流し、心を動かせる 喬木中生徒 ・地域で生き、地域から学び、地域を生かす ・生きる力の育成											
地域と共有された育てたい子どもの姿	○生涯、共に学び、誇りと愛着をもったグローバルな人材を育む ・地域行事に関わり共に学び合うことで、地域の絆やふるさとに対する誇りと愛着を育みます。 ・村と地域の一体的な取り組みで、次世代を担うリーダーの育成を進めます。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2	学校運営への必要な支援について		○									
3	地域の実情や課題について		○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 40 人 参加者延べ人数 60 人						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		授業支援(7月13日)		職場体験学習(7月20日)		福祉体験学習(7月5日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○職場体験学習 7月に2学年で職場体験学習を実施した。その活動支援として地域の方々に関わっていただいた。学校で、生徒たちが希望する職種を調査し、その希望をコーディネーター(公民館長)に伝えることで、コーディネーターがその希望にあった職場と交渉し、職場体験学習の活動支援を受け入れてもらった。コーディネーターに関わってもらったことで、地域にある職場と生徒とが繋がることができた。職場の方からは「このような活動を通して故郷である喬木村にある事業所を知り、社会人になった時に喬木村に戻って働いてもらえる、大変うれしい」という感想をいただいた。新型コロナウイルス感染症感染警戒レベル上昇のため、1日(本来は3日間)しか実施できなかったが、生徒たちは職場体験学習を通して、働くことや社会人となることについて深く考えることができた。												

学校の概要		学校名	豊丘村 立 豊丘中 学校		学校長	久保田みどり		児童生徒数	205 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		「豊丘村コミュニティスクール・地域学校協働本部」運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会教育委員 民生児童委員 豊丘村子ども課長		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		第一回 令和4年7月8日(金) 第二回 令和4年10月6日(木) 第三回 令和5年3月		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		豊丘村公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		ゆたかさ たしかさ たくましさ つつましさ											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域を知り、地域の方々との交流や地域のつながりの中で学びあい、夢・希望・ほこりを持てる豊丘の子											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用可能な部屋でも可)		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 26 人		参加者延べ人数 100 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会			
		清掃				ICT				学習ボランティア			
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携			
		人権教育				国際理解				託児		クラブ、部活動	
										給食			
										休み時間			
										コロナウイルス対策の消毒・清掃			
										遠足・登山			
										放課後教科・体験学習			
										キャリア教育(職場体験を含む)			
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		2年リンゴ摘花作業(4月28日)				仕事みらいフェア(6月22日)				3年放課後学習支援(10月26日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・3学年では、1学期の終わりから地域のボランティアの先生方にお世話になり、豊丘みらい塾として、水曜日の放課後と土曜日の午前中にお忙しい中を生徒のために時間を作ってもらって、毎週学習の指導をしていただいています。</p> <p>・水曜日は、英語1、理科2、土曜日は数学1、社会1の4教科5講座を開講し、英語2名、理科2名、数学2名、社会1名の計7名の先生方にお世話になり、水曜日は中学校、土曜日は村の「ゆめあると」を会場にお借りして実施しています。</p> <p>・講師の先生方から熱心に指導していただき、生徒の学習意欲も向上しています。また、時には先生方が自作の資料やテキストを準備していただいたり個別に丁寧な指導を対応していただいたりして、大変ありがたいです。</p> <p>・今年度の夏休みには、5日間でしたが「サマースタディ」として、全学年の学級を対象に、午前3時間を質問したい内容についてご指導いただきました。</p>													

学校の概要		学校名	大鹿村	立 大鹿中	学校	学校長	林 淳子	児童生徒数	13 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の 学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	大鹿「村」の学校協力隊			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいます(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人	
									地域学校協働活動 推進員(教育委員会 の委嘱を受けた者)		人	
会議 開催数 (予定)	3	回	今年度 開催日 (予定)	4月6日、10月24日、2月17日			中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		教育委員会職員			
								具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		公民館主事		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	心も体も健康で、自らの殻を破って自立できる中学生 1 多様性を認め、互いに思い合える生徒 2 物事を深く考え、自ら進んで学ぼうとする生徒 3 困難から逃げず、自分と向き合える生徒											
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	大鹿村を愛し、伝統や文化・歴史を受け継いで村の次代を担ってほしいとする生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。		○		
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの 人数		ボランティア 登録者人数 40 人 参加者延べ 人数 26 人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4						
地域学校 協働活動 の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間						
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃	放課後教科・ 体験学習					
	土日・長期休業 教科・体験学習	○	地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(こども カフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	○ キャリア教育(職場 体験を含む)				
	人権教育	国際理解	託児									
												
中学校歌舞伎公演会(10/2)			地域貢献ボランティア(10/7)			林業体験学習(10/13)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
大鹿村を愛し、村の次代を担っていく生徒を育成するため、300年近い歴史がある大鹿歌舞伎について、総合的な学習の時間を「大鹿タイム」と名づけ全校生徒で学習している。10月に行われる中学校歌舞伎公演会に向けて4月より稽古を重ね、実際に役者や黒衣として大鹿歌舞伎に関わることで、村の文化への理解を深めている。授業には大鹿歌舞伎愛好会の方々毎回お見えになり、役者の生徒には台詞の言い回しや所作等について、黒衣の生徒には舞台裏での動き等について、村の方々から直接子どもたちへと受け継いでいる。学校の授業に村の方々関わってくださることで、伝統文化が着実に継承されていると感じる。												

学校の概要		学校名	根羽村	立根羽	学園	学校長	松岡一成	児童生徒数	41名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	ねば杉の子サポート隊運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2人		
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月6日(金)		5月19日(木)		12月15日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	保護者(PTA)	
										具体的な役職(他を選擇した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	『自立』根基(学ぶ力)」「自主(やる気)」「敬愛(思いやり)」											
地域と共有された育てたい子どもの姿	根羽村に誇りと自信を持ち、「生きる力」を身に付けて、「自立」できる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		20人		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		参加者延べ人数		10人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	○	休み時間			
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育		国際理解		託児							
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>椎茸菌打ち作業 5月11日(水)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>あいさつ運動 毎月10日</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>PTA魚つかみ魚つり大会 7月23日(土)</p> </div> </div>												
代表的な協働した活動の取組例												
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>・5月11日(水)に根羽村森林組合の方と南信州地域振興課林務課の方を講師に迎え、椎茸の菌打ち(コマ打ち)作業を行った。作業に入る前に林務課の方から椎茸を含むキノコについての基礎知識や、森林の性質についてお話をいただいた。その後体育館大走りへ場所を移して椎茸の菌打ち作業を行った。児童達は毎年行っている活動なので原木を運ぶことや、電動ドリルで原木に穴を開けることにも慣れていて、順調に作業を進める姿が見られた。今回は保小連携として保育所の年少の園児も参加したことで、園児に自信を持って教えながら作業をすることで、地域の産業に関わる喜びが増しているようだった。</p>												

学校の概要		学校名	長野県飯田養護		学校	学校長	浦野 憲一郎		児童生徒数	180 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	7月2日 12月19日 3月予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	持てる力をめいっぱい発揮し、共に学ぶ喜びをもち、明るく心豊かに生きる子どもを、一人ひとりの心身の発達に応じて育てる											
地域と共有された育てたい子どもの姿	自らの良さを発揮し、「今」を精一杯生きる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。						
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		人		
								参加者延べ人数	30	人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会	クラブ、部活動		給食		休み時間		
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	日赤奉仕団 ボランティア作業				営農組合とのコマ作り				営農組合とのコマ作り			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>小学部5年の学級でJAを通して営農組合の方々とながら、コマ作りを行った。身近なコマを自分たちで育て、田植え、収穫、脱穀などの作業に取り組むことで、コマができた実感を持つことができた。</p> <p>また、このつながりをもとにJAから本校高等部に対して仕事の依頼のお話をいただくことができた。高等部における作業学習の幅を広げられる可能性が見えてきた。なかなかできなかった顔の見える交流、体験が少しずつできそうである。</p>												